

モザンビーク共和国
ソファアラ州における HIV/AIDS 啓発の
ための IEC 活動強化プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成22年3月
(2010年)

独立行政法人国際協力機構
モザンビーク事務所

モザ事
JR
10-002

モザンビーク共和国
ソファラ州における HIV/AIDS 啓発の
ための IEC 活動強化プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成22年3月
(2010年)

独立行政法人国際協力機構
モザンビーク事務所

序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、モザンビーク政府および関係機関との協議に基づき、2007年4月に討議議事録（Record of Discussion：R/D）を署名し、モザンビーク共和国ソファラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクトを開始した。

今般、プロジェクトの終了時評価を実施することを目的として、2010年2月に調査団を派遣し、モザンビーク国政府および関係機関との間でプロジェクトの進捗状況の確認と DAC5 項目評価に基づいた評価、提言と教訓の抽出を行った。

本報告書は、同評価調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの実施にあたって活用されることを願うものである。

最後に、本調査にご協力をいただいた内外の関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成 22 年 3 月

独立行政法人国際協力機構
モザンビーク事務所 所長 宿野部 雅美

目 次

序 文

地 図

小規模案件用「終了時評価表」

Evaluation Summary

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査日程	1
1-3 プロジェクトの概要	2
第2章 終了時評価の方法	5
2-1 評価グリッドの作成	5
2-2 評価実施方法	5
第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス	7
3-1 投入	7
3-2 活動実績	7
3-3 成果の達成状況	10
3-4 プロジェクト目標の達成状況	11
3-5 実施プロセスの検証	12
第4章 評価結果	13
4-1 妥当性	13
4-2 有効性	14
4-3 効率性	16
4-4 インパクト	18
4-5 自立発展性	19
4-6 結論	20
第5章 提言および教訓	22
5-1 提言	22
5-2 教訓	22
付属資料	
1. ミニッツ（英文）	25
2. 合同評価報告書	59
別添資料1：Project Design Matrix（PDM）	60
別添資料2：プロジェクト投入要素一覧	62

3. 評価グリッド（和文）	64
---------------------	----

地 図

モザンビーク共和国全図



小規模案件用「終了時評価表」

1. 案件の概要	
国名：モザンビーク共和国	案件名： ソファラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト
分野：保健医療	援助形態： 技術協力プロジェクト
主管部署：モザンビーク事務所	協力金額（評価時点）：4,290 万円（2009 年度末見込み）
協力期間	R/D 記載年月日： 2007 年 4 月 10 日～2010 年 4 月 9 日
	先方関係機関：国家エイズ対策委員会
	日本側協力機関：特になし
	他の関連協力：特になし
1-1 協力の背景と概要	
<p>モザンビーク共和国（以下、「モザンビーク」と記す）における HIV 成人（15～49 歳）感染率は約 16%、成人感染者数は約 180 万人、約 15 万人が AIDS で死亡している（UNAIDS/WHO, 2006）。モザンビーク保健省では、新規感染者は毎年 20 万人を超えると推計しており、新規感染者の約 60%が 15～24 歳の若者であること、また、15 歳以下の年齢層にも感染は拡大しており新規感染者の約 15%を占めていること等が報告されている。同保健省の調査では、北部地域感染率は約 7%、中部地域 17%、南部地域 14%と推測されており、感染率の地域格差がみられる中、「ベイラ街道」と呼ばれる交通の要所を擁する中部ソファラ州の感染率は約 24%と高い状況にあった。モザンビークでの HIV 感染は、南部アフリカ諸国に比べると拡大開始時期が遅く、拡大速度も緩やかであったが、1992 年の和平協定締結以降の人口移動の活発化に伴い、感染拡大速度が速まっている。主な感染経路は異性間性交渉であり、次いで母子感染と報告されている。</p> <p>HIV 予防啓発は正しい知識の普及からと考えたモザンビーク国家エイズ対策委員会（CNCS）より、過去に JICA により供与された啓発用機材を活用し、新規感染が拡大している若者（15～30 歳）をターゲット・グループとして、行動変容をめざした教育・啓発活動（IEC 活動）をソファラ州で促進するため「ソファラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト」が要請され、2007 年 4 月から 2010 年 4 月までの予定で開始された。同プロジェクトは、長期専門家は派遣せず、CNCS および州支部（NPCS）を C/P 機関、ならびに社会コミュニケーション機関（ICS）を実施機関として活動が開始された。しかしながら、実際の活動は現地 NGO であるモザンビークキリスト教徒評議会及び KAP 調査のための現地コンサルタントを活用し実施中である。</p>	
<p><協力内容></p> <p>(1) 上位目標 ソファラ州における HIV 罹患率が減少する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 ソファラ州において、コンドーム使用、性的パートナー、初性交渉の遅延に向けた若年者（15～30 歳）の行動変容が起こり、PLWHA（HIV/AIDS と共に生きる人々）に向けた差</p>	

別的態度が緩和される。

(3) 成果

HIV/AIDS 教育の強化を通して、若年者の HIV/AIDS 問題に関連した知識・態度・行動 (KAP) のレベルが改善する。

CNCS 及び ICS のプログラム実行能力が強化され、他の団体との連携が促進される。

(4) 投入

<日本側>

専門家派遣	なし
機材供与	11,555,000 円
在外事業強化費 (コンサルタントおよび NGO との契約費含む)	31,345,000 円
合計	42,900,000 円

<モザンビーク側>

カウンターパートの配置	NPCS より 2 名
プロジェクトの事務所を含む土地および施設の提供	
現地活動費	
トレーニングおよびセミナー開催の準備	

2. 評価調査団の概要

団長・総括:	宿野部 雅美	JICA モザンビーク事務所 所長
評価計画:	大野 憲太	JICA モザンビーク事務所 所員
協力企画:	Simoos Victorino	JICA モザンビーク事務所 在外専門調整員
評価分析:	井上 洋一	株式会社 日本開発サービス 調査部 主任研究員
調査期間:	2010年2月5日～2010年2月16日	調査種類: 終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果の達成状況

【成果 1】 HIV/AIDS 教育の強化を通して、若年者の HIV/AIDS 問題に関連した知識・態度・行動 (KAP) のレベルが改善する。

<指標> 2010 年までに、HIV/AIDS 問題に関し、プロジェクトの開始時と比較してより高いレベルの知識、態度および行動が若者の間に確認される。

成果 1 は、部分的に達成された。KAP 調査により、プロジェクト活動開始後 2 年で若者の HIV/AIDS 問題に関する知識、態度および行動について以下の改善があったことが確認された。

- 若者の検査を受けようという意志が 2007 年の 30% から 2009 年は 93.4% に、63.4% 増加した。
- コンドームの使用が 2007 年の 35% から 2009 年は 35.8% に、0.8% 増加した。

- 複数の性的パートナーを持つ人が 2007 年の 33%から 2009 年は 30.7%に、2.3%減少した。
- 初性交渉年齢が 2007 年の 15 歳から 2009 年は 17 歳に、2 歳上昇した。
ソファアラ州の HIV/AIDS 罹患率はプロジェクト期間中に減少しているが、プロジェクトは、知識、態度および行動の改善を明らかにするために十分なサンプル量での KAP 調査は実施出来ていない。

【成果 2】 CNCS および ICS のプログラム実行能力が強化され、他の団体との連携が促進される。

<指標> 2010 年までに、ICS がソファアラ州において少なくとも 3 つ以上のパートナー組織と合同で通常活動を実施する。

成果 2 はほぼ達成された。プロジェクト実行方法が変更され、ICS は実施スキームから実質的に除外された。方法の変更後、より効果的で持続可能な実施体制が NPCS と現地 NGO の主導によって構築され、IEC 活動実施能力と他の組織との連携の改善を促進した。NPCS および CCM は、5 つの CBO や Haya Haya 劇団等のその他関連組織とネットワークを構築し、郡レベルの HIV/AIDS 担当者が IEC 活動を通常活動として実施できるよう能力強化を実施した。

(2) プロジェクト目標

ソファアラ州において、コンドーム使用、性的パートナー、初性交渉の遅延に向けた若年者（15～30 歳）の行動変容が起こり、PLWHA（HIV/AIDS と共に生きる人々）に向けた差別的態度が緩和される。

プロジェクトは、性的パートナー数の減少およびコンドーム使用率の増加に向けた取組みを実施したが、予定された活動の遅延のため、プロジェクト目標の達成は限定的であると考えられる。

しかしながら、性的パートナー数の減少、初性交渉年齢の上昇や PLWHA に対する差別的態度の減少に関して前向きの変化が見られることを考慮に入れると、プロジェクトの終了までにはプロジェクト目標を部分的に達成することが期待される。また、コンドーム使用のわずかな上昇は、改善の端緒であると考えられる。プロジェクト目標の各指標達成度を以下に示す。

指標	達成度
1. 2010 年までに、プロジェクト開始時と比較してソファアラ州の若年者の最終性交渉時のコンドーム使用率が 10%上昇する。	2007 年の KAP 調査ではコンドーム使用率は 35%であったが、2009 年には 35.8%となった。2 年でコンドーム使用率はわずかに上昇した。
2. 2010 年までに、プロジェクト開始時と比較して性交渉パートナー数の平均が減少する。	2007 年の KAP 調査では複数の性的パートナーを持つ人々の割合は 33%であったが、2009 年には 30.7%となった。2 年間で 2.3%の減少が見られた。

3. 2010年までに、初性交渉年齢の平均/中央値がプロジェクト開始時と比較して上昇する。	2007年のKAP調査では初性交渉年齢の平均は15歳であったが、2009年には17歳であった。2年間で2歳上昇した。
4. 2010年までに、PLWHAに対する差別的態度が若年者で10%改善する。	若年者の差別的態度は、平均率がプロジェクト開始時の97.5%から2009年には88.2%に9.3%減少したことを考慮に入れると、2010年までに達成できると考えられる。

3-2 5項目評価結果

(1) 妥当性

以下に示す理由から、プロジェクトの妥当性は、終了時評価時点でも高く維持されている。HIV/AIDS対策における政策対応の重要性は、終了時評価の時点でもモザンビークの保健に関する優先政策の一つとして維持されている。さらに、IECを含むHIV/AIDS対策への取り組みは、CNCSおよびMISAUの次期戦略計画においても優先性は高いものと考えられる。さらに、日本およびJICAの援助方針や社会のニーズとの一致性も確認されている。したがって、プロジェクトの妥当性は終了時評価の時点で高く維持されているものと考えられる。

(2) 有効性

以下の理由から、プロジェクトの有効性は、終了時評価の時点でおおむね中程度であると考えられる。

プロジェクト目標に関する指標の達成度では、終了時評価の時点で若者世代の知識、態度および行動の改善が不十分であったため、評価原則に厳密に則った指標の達成観点からは本プロジェクトの有効性は限定的であると言える。プロジェクト活動の遅延はプロジェクト活動の実行を阻害しており、第2回KAP調査で達成度が不完全であり結果が不十分であったことは、この遅延に起因するものと示唆される。しかしながら、プロジェクトは、HIV検査に対する認識の大きな向上や教育された性交渉など、いくつかの指標の改善には成功している。したがって、プロジェクトの有効性は終了時評価の時点でおおむね中程度であると考えられる。

(3) 効率性

プロジェクト活動の遅延によりプロジェクト効率が減じられ、プロジェクト効率性は終了時評価の時点で低位中程度と判断される。

各プロセスの活動は活動計画(Plan of Operation)に沿って実施されたが、予定されたプロジェクト活動は、全体的に遅延した。遅延の理由としては、プロジェクト期間の開始年のほとんどが、プロジェクトの基礎準備としてのPDM最終決定や第1回KAP調査の実施に費やされ、その結果としてプロジェクト活動が全体的に遅延したことなどが考えられる。このため、プロジェクト活動の実際の実施期間は、2年間に短縮されたと見なすことができるため、実質的な活動期間では満足な行動変容を促すには短すぎたと考えられた。しかし、NPCSおよびCCMは、5つのCBOおよびその他の関係機関らとコミュニティベースのネットワークを築いており、このネットワークは将来、ソファラ州のHIV罹患率の改善に貢献することが期

待される。以上のことから、プロジェクトの効率性は、プロジェクト活動の遅延によってプロジェクト効率が低下したことが影響し、終了時評価の時点で低位中程度と評価される。

(4) インパクト

プロジェクトの実施に伴い、以下のような正負のインパクトが確認または予測される。
HIV 罹患率のわずかな減少はすでに観察されているが、プロジェクト範囲外の外部因子の影響もあると考えられることから、減少に対するプロジェクトの直接的影響を測定することは困難である。しかし、ソファアラ州での HIV/AIDS 罹患率 5%減少という上位目標の指標達成には、現在のプロジェクト活動の継続的实施が必要であり、継続的な財政支援および技術支援が必要と考えられる。また、主要幹線道路である「ベイラ街道」を有するソファアラ州は、その他の州やその他の国からの移動労働者や移民が多く、これらは主要な HIV 伝播者の一つと考えられる。抗レトロウイルス治療 (ART) や、検査のリファラルシステムや品質保証、HIV 検査サービスの提供、栄養など、他の重要な外部因子に関しても、HIV 罹患率の減少だけでなく、モザンビークにおける HIV/AIDS の総合的な状況改善のためには、内外の関係機関との連携した取り組みを考慮する必要がある。また、終了時評価時点で負のインパクトは確認されていない。

(5) 自立発展性

小規模であっても継続的支援が何らかの方法で得られれば、プロジェクトによりもたらされた便益の自立発展性や自立的な展開も一定程度期待できる。

政策的、制度的観点から、HIV/AIDS 対策の重要性としてのプロジェクトの自立発展性は今後も高く維持されるものと考えられる。しかしながら、IEC 活動を通常業務として実施する一定レベルの能力を獲得したものの、プロジェクトの実施を通して得られた便益を維持し、質の高いデータ管理能力の一層の向上を推進するには、たとえ小規模であっても財政支援および技術支援の継続が必要とされる。以上のことから、何らかの継続的な小規模の支援が提供されれば、プロジェクトにより得られた便益の自立発展性および自立的な展開はある程度期待できるものと考えられる。

(6) 結 論

プロジェクトから得られた便益の維持、向上、一層の発展のためには、たとえ小規模であっても、何らの継続的な財政ならびに技術支援が必要であることが示唆される。

4. 特記事項 (提言・教訓を含む)

4-1 提言

活動・成果の達成状況をレビューした結果に基づき、以下のとおり提言を取りまとめ、モザンビーク側及び日本側で合意した。

- 1) 正確な外挿性との観点からデータの質を保証するためは、3年から5年の間隔で1,300から1,500の十分な「検出力」を以て追加的 KAP 調査を行うことが必要である。
- 2) 若者世代だけでなく社会に対しても知識、態度および行動に確実な影響を生み出すため

には、現在の活動を継続的に実施すべきである。

- 3) 活動の自立発展性と質を向上させるためには、HIV/AIDS 予防知識、NPCS・郡および CBO のネットワーク化を含むプロジェクト管理能力の向上のための技術的トレーニングを推進する必要がある。トレーニングを実施する場合、参加者の知識変容の評価を行い、試験の分析結果をトレーニング方法にフィードバックさせるため、トレーニング前後の試験を正確に実施する必要がある。
- 4) よりよい技術協力の実施および便益の持続性担保のためには、HIV 罹患率の減少へ向けた多国間、多セクター間の取り組みを検討する必要がある。
- 5) プロジェクトおよびソファアラ州当局は、プロジェクトで得られた便益の自立発展性のため必要な措置について財政的観点から討議し、整理しておく必要がある。また、中央レベルの CNCS は、国全体の IEC 活動改善のため、ソファアラ州におけるこのプロジェクトの成果を利用する必要がある。

4-2 教訓

- 1) 複数の組織より構成されるカウンターパートとのプロジェクト実施を考慮する場合は、プロジェクトの詳細計画策定調査に先立って、カウンターパートの関係性だけでなく力量などについても慎重に調査を実施するべきである。
- 2) 行動変容を促進するには、よりよい効率性と自立発展性を得るためにもコミュニティの関与およびコミュニティを基盤とする組織の真の見込みが必要であると考えられる。
- 3) ジェンダー問題を含む多様な社会条件下で対象者の行動変容を促すためには一定の時間を要するため、行動変容をめざすプロジェクトの実施について考慮する場合は指標およびプロジェクト期間について慎重に検討すべきである。

5. 付属資料

- ・ 合同評価報告書

Evaluation Summary

1. Outline of the Project	
Country: Republic of Mozambique	Project Title: Strengthening of Information, Education and Communication Activities on HIV/AIDS in Sofala Province
Issue/Sector: Healthcare and medical treatment	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: JICA Mozambique Office	Total Cost : 42,900,000 JPY (Estimated cost as of the end of the Project)
Period of Cooperation	April 10, 2007 – April 9, 2010
	Partner Country's Implementing Organization: National Council for Fight against AIDS
	Supporting Organization in Japan: Not applicable
	Other Related Projects: Not applicable
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>In the Republic of Mozambique (hereinafter referred to as “Mozambique”), HIV prevalence amongst adult generation ranging from 15 to 49 years old, the number of People Living with HIV and AIDS (hereinafter referred to as “PLWHA”). Especially for Sofala province, where is the metropolis in central region with major arterial road of “Beira Corridor”, it is estimated to have high HIV prevalence of 24%. MISAU reported that approximately 60% of those newly infected account for younger generation ranging from 15 to 24 years old, and approximately 15% of those newly infected account for later childhood below 15 years old which implies a lowering trend in the age of newly infection.</p> <p>Under these circumstances, the National Council for Fight against AIDS (hereinafter referred to as “CNCS”) prioritized the popularization of accurate knowledge about HIV/AIDS for its dissemination of information on HIV/AIDS prevention. Consequently, MISAU requested JICA to launch a new project in Sofala province with high prevalence of <i>HIV/AIDS entitled “STRENGTHENING OF INFORMATION, EDUCATION AND COMMUNICATION ACTIVITIES ON HIV/AIDS IN SOFALA PROVINCE”</i> (hereinafter referred to as “the Project”) for a younger generation raging from 15 to 30 years old as a target group at a high risk of newly infection of HIV. The purpose of the Project is to accelerate Information, Education and Communication (hereinafter referred to as “IEC”) related activities for effective behavioral modification, by utilizing existing equipment and materials provided by JICA formerly.</p> <p>The Project has been implemented from April 2007 for 3-year project period until April 2010, with the National Aids Nucleus (hereinafter referred to as ”NPCS”) under CNCS as counterparts, and the Institute of Social Communication (hereinafter referred to as “ICS”) as the implementing body, instead of dispatching Japanese experts. However, the actual project activities were implemented by utilizing the Christian Council of Mozambique (hereinafter referred to as “CCM”), a local NGO in Mozambique, and local consultants for the implementation of Knowledge, Attitude and Practice (hereinafter referred to as “KAP”) survey.</p> <p>1-2 Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal</p>	

HIV prevalence in Sofala Province is reduced.

(2) Project Purpose

The behaviors of youth toward; increased condom use, reduced number of sexual partners, and delayed sexual debut, are changed, and also discriminatory attitudes toward PLWHA are thawed in Sofala Province.

(3) Outputs

1) Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education.

2) Programme implementing capacity of CNCS and ICS is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.

(4) Input

<Japanese Side>

Dispatch of Experts	Not dispatched
Provision of Equipment and Materials	11,555,000 JPY
Provision of local activity cost (including consultants' fee and management fee to NGO)	31,345,000 JPY
Sum Total	42,900,000 JPY

<Mozambican Side>

Allocation of Counterparts	2 from NPCS
Provision of Land and Facilities including Office for the Expert	NPCS facilities
Appropriation of Operational Cost	
Preparation of Training and Seminar	

2. Terminal Evaluation Team

Team Leader	Mr. Masami SHUKUNOBE	Chief Representative, JICA Mozambique Office
Evaluation Planning	Mr. Kenta ONO	Assistant Resident Representative, JICA Mozambique Office
Cooperation Planning	Mr. Simoes VICTORINO	Consultant (Health Sector), JICA Mozambique Office
Evaluation and Analysis	Dr. Yoichi INOUE	Senior Consultant, Japan Development Service, Co., Ltd.

Period of Evaluation: February 5, 2010 – February 16, 2010 | Study Type: Terminal Evaluation

3. Summary of Evaluation Results

3-1 Achievements

(1) Output 1

“Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education.”

< **Indicators** > By 2010, higher level of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issue among the youth will be confirmed in comparison with that of the beginning of the Project.

Output 1 was partially achieved. KAP study found the following improvements on knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issue among the youth 2 years after the beginning of the project activities.

- Increase of the youth intention to make test with 63.4% from 30% in 2007 to 93.4 % in 2009;
- Little increase of usage of condoms with 0.8% from 35% in 2007 to 35.8% in 2009;
- Little reduction of people with multi sexual partners with 2.3% from 33 % in 2007 to 30.7% in 2009;
- Two years elevation of age for the first sexual intercourse from 15 years old in 2007 to 17 years old in 2009.

Prevalence rate of HIV/AIDS of Sofala province was reduced during the project period, but the project could not conduct the KAP study with appropriate quantity of data to clarify the improvements on knowledge, attitude and practice.

(2) Output 2

“Programme implementing capacity of CNCS (and ICS) is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.”

< **Indicators** > By 2010, ICS will organize regular activities jointly with at least 3 partner organizations in Sofala Province.

Output 2 was almost achieved. The project implementation approach was changed, and ICS was excluded from the implementation structure. After the change of approach, more effective and sustainable implementing organization was established with initiative of NPCCS and local NGO. It promoted improvement of implementing capacity on IEC activities and partnership with other related entities. NPCCS and CCM established a network with five CBOs and other related actors such as Haya Haya theatre group, and build the capacity of district level responsible for HIV/AIDS to implement IEC activities as regular activities.

(3) Project Purpose

“The behaviors of youth toward; increased condom use, reduced number of sexual partners, and delayed sexual debut, are changed, and also discriminatory attitudes toward PLWHA are thawed in Sofala Province.”

Despite the Project was supposed to make strong efforts to increase the condom usage rate as well as the reduction of the number of sexual partners, the achievement of the Project Purpose would be limited to some extent because of the delay of expected activities.

However, it is expected the Project Purpose is partially achieved by the end of the Project, taking into account that positive changes have been found on the reduction number of sexual partners, sexual debut

age and discriminatory attitudes toward PLWHA. A marginal increase of condom use can be regarded as the onset of improvement. Achievements of each Indicators of the Project Purpose are as indicated below.

Objectively Verifiable Indicators	Achievements
1. By 2010, condom use in last occasional sexual relation among the use in Sofala Province is increased by 10% in comparison with that of the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, the percentage of condom use was 35%, and that of 2009 became 35.8%. There was small increase of usage of condoms in 2 years.
2. By 2010, the average number of sexual partners is reduced in comparison with that of the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, the percentage of people with multi sexual partners was 33% and that of 2009 became 30.7%. There has been a reduction of 2.3 % in two years.
3. By 2010, the average/median age of sexual debut is elevated in comparison with the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, average of the first sexual intercourse was 15 years old, and that of 2009 was 17 years old. It was elevated with 2 years in 2 years.
4. By 2010, 10% of youth thawed discriminatory attitudes toward PLWHA.	The youth discrimination attitude by 2010 could be archived, taking into consideration that the average rate is 9.3% reduction from 97.5% at the beginning of the project to 88.2% in 2009.

3-2 Evaluation Results by Five Criteria

1. Relevance

The relevance of the Project is highly maintained at the time of the Terminal Evaluation for the following reasons.

The importance of policy response to combat HIV/AIDS is maintained as one of priority policies regarding Mozambican healthcare at the time of Terminal Evaluation. Moreover, the active efforts to HIV/AIDS including IEC activities are supposed to be highly prioritized in the next strategic plan that is about to be launched by CNCS and MISAU. Moreover, consistency with Japan's and JICA's aid policies as well as needs of society is confirmed. Therefore, it is considered that the relevance of the Project is highly maintained at the time of the Terminal Evaluation.

2. Effectiveness

The effectiveness of the Project remains moderate generally at the time of the Terminal Evaluation for the following reasons.

The achievement of objectively verifiable indicators for the Project Purpose from the aspect of accomplishments of the indicators on the basis of the evaluation principals strictly, it is considered that the achievement of the Project is rather limited due to insufficient improvements of knowledge, attitudes and practice amongst younger generation at the time of the Terminal Evaluation. Delays of the project activities have substantially inhibited the implementation of the project activities.

Mal-achievement and insufficient results of the 2nd KAP study might be attributed to the delay. However, the Project succeeded to improve several indicators such as substantial increase of awareness toward HIV test and educated sexual intercourse. Therefore, it is considered that the effectiveness of the Project is considered to be moderate on average at the time of the Terminal Evaluation.

3. Efficiency

The efficiency of the Project is lower moderate at the time of the Terminal Evaluation, since substantial delays of the project activities vitiated the efficiency of the Project.

Activities on each process have been conducted in line with the Plan of Operation, while the planned activities of the Project, by and large, were substantially delayed for almost one year for the finalization of PDM and the 1st KAP study as a preparation of the project ground. Thus, the actual period of time for the implementation of project activities was substantially shortened for two years, which was considered too short to promote satisfactory behavioral modifications amongst the target group. However, NPCS and CCM established community-based networks with five CBOs and other related actors, and the network will contribute to the improvement of HIV prevalence in Sofala province in the future. Therefore, The efficiency of the Project is lower moderate at the time of the Terminal Evaluation, since substantial delays of the project activities vitiated the efficiency of the Project.

4. Impacts

The following positive or negative impacts are confirmed or expected in line with the implementation of the Project.

Slight reduction of HIV prevalence was already observed, while it is difficult to measure direct influence of the Project to the reduction due to the existence of external factors. However, for consequent achievement of the indicator of Overall Goal of a 5% reduction of the HIV/AIDS prevalence in Sofala Province, continuous implementation of current activities with financial and technical assistances will be necessary. Sofala province has a lot of transients and immigrants from other provinces and other countries, who can be the one of the major HIV transmitters. Other important assumptions such as ART, referral system and quality assurance of laboratories, HIV test service provision, nutrition, etc. should be taken into consideration not only for reduction of HIV prevalence but for comprehensive improvement of HIV/AIDS situation. Therefore, it is considered that multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence rare should be taken into consideration in order to promote a certain impact on the reduction of HIV prevalence. As aforementioned, HIV/AIDS-related issues are recognized to be crosscutting, mutual positive impacts amongst relative agencies will be expected through the improvement of IEC activities. No negative impact was observed and expected at the time of the Terminal Evaluation.

5. Sustainability

A self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits provided by the Project can be expected in some degree if continuous small-sized assistances are obtained by any means.

From political and institutional aspects, sustainability of the project in terms of the importance of HIV/AIDS control will be highly maintained. However, financial and technical assistance will be required, even if it were small-scale, to maintain the benefits derived from the implementation of the Project and to promote further improvement of their capacity for quality data management, while they

have acquired certain level of capacity for the implementation of IEC activities as a routine work. Therefore, it is considered that a self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits provided by the Project can be expected in some degree if continuous small-sized assistances are obtained by any means.

6. Conclusion

In conclusion, it is suggested that some sort of continuous assistance from financial and technical aspects, even if it were small-scale, would be necessary for the maintenance and/or the improvement of benefits derived from the Project, and for further development.

4. Special Affairs including Recommendations and Lessons Learned

4-1 Recommendations

Based on the review on the achievement of the activities and the outputs of the Project, both sides confirmed the recommendations as follows:

- 1) It would be required to conduct an additional KAP study with efficient “power” of 1,300 - 1,500 at 3 - 5 years intervals to guarantee data quality in terms of accurate extrapolation;
- 2) Current activities should be implemented in a continuous manner to generate a certain impact of knowledge, attitude and practices not only for younger generation and also for society;
- 3) Technical trainings for betterment of knowledge of HIV/AIDS prevention, project management capacity including networking of NPCS, districts and CBOs should be promoted in order to improve sustainability and quality of activities. In case of implementation of trainings, pre and post test should be done correctly in order to evaluate the knowledge change of participants and to improve training approach;
- 4) Multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence rare should be taken into consideration for better efficiency of technical cooperation and beneficial sustainability;
- 5) The Project and authorities in Sofala province should discuss and organize necessary measures, from financial perspective, for the sustainability of the benefits of the Project. Also, CNCS at central level should utilize the achievement of this Project in Sofala province for overall improvement of IEC activities in the country.

4-2 Lessons Learned

- 1) When considering a project with multi-organizational counterparts, work performances as well as relationship amongst them should be carefully investigated prior to the detailed planning survey of the project.
- 2) To promote behavioral modification, involvement of communities and/or community-based organizations is considered to be necessary for better efficiency and sustainability.
- 3) When considering a project, which aims behavioral modifications, objectively verifiable indications as well as project period should be carefully discussed since it might take certain amount of time to promote behavioral change under the circumstances of a variety of social conditions including gender issues.

5. Appendix

- Joint Evaluation Report

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

今回実施する終了時評価調査は、プロジェクト終了の段階で、これまでに実施した協力について活動実績の確認や目標達成度の評価を行うとともに、協力予定期間終了後の対応も含めた今後のプロジェクト運営に向けた教訓と提言をまとめることを目的とする。調査のポイントは以下のとおりである。

- (1) これまで実施した協力活動について当初計画に照らし、投入実績、活動実績、計画達成度を確認し、問題点を整理する。
- (2) 計画達成度を踏まえ、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から、プロジェクトチーム、モザンビーク国側関係者とともに、プロジェクトの目標達成度および成果等を評価する。
- (3) 上記の評価結果に基づき、プロジェクト終了までの課題及び今後の活動計画についてプロジェクトチーム、モザンビーク側関係機関と協議し、提言を行う。
- (4) 得られた教訓を取りまとめる。
- (5) 評価・協議結果を双方の合意事項としてミニッツに取りまとめる。

1-2 調査団の構成と調査日程

終了時評価調査団は、JICA およびモザンビーク国家エイズ対策委員会の合同評価調査として実施された。合同評価委員は、以下のとおりである。

<モザンビーク側評価委員>

氏名	所属
Diogo Milagre	国家エイズ対策委員会副委員長
Maria Semedo	ソファラ州エイズ対策委員会委員長
Katia Manjate	国家エイズ対策委員会職員
Nelson Joaquim	ソファラ州エイズ対策委員会職員

<JICA 終了時評価調査団員>

担当	氏名	所属
団長／総括	宿野部 雅美	JICA モザンビーク事務所 所長
評価計画	大野 憲太	JICA モザンビーク事務所 所員
評価分析	井上 洋一	株式会社日本開発サービス 調査部 主任研究員
協力企画	Simoes Victorino	JICA モザンビーク事務所 在外専門調整員

終了時評価調査は、2010年2月5日から2月16日にかけて実施され、合同評価委員によるプロジェクト報告書のレビュー、現地調査、関係者へのインタビューにより情報を収集し、評価内容が取りまとめられた。

1-3 プロジェクトの概要

< 背景 >

モザンビーク共和国（以下、「モザンビーク」と記す）における HIV 成人（15～49 歳）感染率は約 16%、成人感染者数は約 180 万人、約 15 万人が AIDS で死亡している（UNAIDS/WHO, 2006）。モザンビーク保健省では、新規感染者は毎年 20 万人を超えると推計しており、新規感染者の約 60%が 15～24 歳の若者であること、また、15 歳以下の年齢層にも感染は拡大しており新規感染者の約 15%を占めていること等が報告されている。同保健省の調査では、北部地域感染率は約 7%、中部地域 17%、南部地域 14%と推測されており、感染率の地域格差がみられる中、「ベイラ街道」と呼ばれる交通の要所を擁する中部ソファアラ州の感染率は約 24%と高い状況にあった。モザンビークでの HIV 感染は、南部アフリカ諸国に比べると拡大開始時期が遅く、拡大速度も緩やかであったが、1992 年の和平協定締結以降の人口移動の活発化に伴い、感染拡大速度が速まっている。主な感染経路は異性間性交渉であり、次いで母子感染と報告されている。

HIV 予防啓発は正しい知識の普及からと考えたモザンビーク国家エイズ対策委員会（CNCS）より、過去に JICA により供与された啓発用機材を活用し、新規感染が拡大している若者（15～30 歳）をターゲット・グループとして、行動変容をめざした教育・啓発活動（IEC 活動）をソファアラ州で促進するため「ソファアラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト」が要請され、2007 年 4 月から 2010 年 4 月までの予定で開始された。同プロジェクトは、長期専門家は派遣せず、CNCS および州支部（NPCS）を C/P 機関、ならびに社会コミュニケーション機関（ICS）を実施機関として活動が開始された。しかしながら、実際の活動は現地 NGO であるモザンビークキリスト教徒評議会及び KAP 調査のための現地コンサルタントを活用し実施中である。

現行のプロジェクト概要は、以下のとおりである。

現行 PDM のプロジェクト要約（Version 1、2007 年 12 月 18 日改訂）

上位目標と指標	<u>上位目標</u> ソファアラ州における HIV 罹患率が減少する。 上位目標の指標 2012 年までにソファアラ州の HIV 罹患率が 5%低下する。
プロジェクト目標と指標	<u>プロジェクト目標</u> ソファアラ州において、コンドーム使用、性的パートナー、初性交渉の遅延に向けた若年者（15～30 歳）の行動変容が起こり、PLWHA（HIV/AIDS と共に生きる人々）に向けた差別的態度が緩和される。 <u>プロジェクト目標の指標</u> 1. 2010 年までに、プロジェクト開始時と比較してソファアラ州の若年者の最終性交渉時のコンドーム使用率が 10%上昇する。

	<p>2. 2010年までに、プロジェクト開始時と比較して性交渉パートナー数の平均が減少する。</p> <p>3. 2010年までに、初性交渉年齢の平均/中央値がプロジェクト開始時と比較して上昇する。</p> <p>4. 2010年までに、PLWHAに対する差別的態度が若年者で10%改善する。</p>
<p>成果と指標</p>	<p><u>成果1</u> HIV/AIDS教育の強化を通して、若年者のHIV/AIDS問題に関連した知識・態度・行動（KAP）のレベルが改善する。</p> <p><u>成果1の指標</u> 2010年までに、プロジェクト開始当初に比して、若年者のHIV/AIDS問題に関連した知識・態度・行動（KAP）のレベル改善が確認される。</p> <p><u>成果2</u> CNCSおよびICSのプログラム実行能力が強化され、他の団体との連携が促進される。</p> <p><u>成果2の指標</u> 2010年までに、ICSがソファラ州内で少なくとも3つのパートナー機関と協同で活動を実施する。</p>
<p>活動</p>	<p><u>活動1</u></p> <p>1-1：プロジェクト前後において、若者のHIV/AIDSに関するKAP調査を実施し、調査結果を分析する。</p> <p>1-2：大人グループ（子どもの親、コミュニティリーダー、宗教指導者、伝統的治療師、教師、政府関係者等）に対して、若者の性的活動に係る調査を実施する。</p> <p>1-3：大人グループを対象とした、HIV/AIDS教育の家族及びコミュニティへの浸透の重要性認識度向上に係るワークショップを開催する。</p> <p>1-4：現存のIEC教材の評価を行い、「HIV/AIDSコミュニティ戦略」の精神に則った新規教材へのニーズを把握する。</p> <p>1-5：活動1から4の結果をもとに、若者および大人グループを対象とした新しいIEC教材を作成する。</p> <p>1-6：若者および大人グループを対象に、IEC教材、及びVCTやコンドーム配布等の利用可能なサービスにかかる情報を普及させる。</p> <p>1-7：若者、大人グループ、HIV感染者グループを巻き込んだ参加型討論会を開催し、IEC活動を通じて普及させるべき内容・メッセージに係るコンセンサスを得る。</p>

	<p>活動2</p> <p>2-1：ソファアラ州で若者向けの HIV/AIDS 教育分野で活動（リプロダクティブヘルス、保健人材、劇、音楽等）を行っている関係機関について把握・整理する。</p> <p>2-2：ソファアラ州で若者向けの HIV/AIDS 教育分野の関連施設（VCT センター等）や利用可能なサービス（コンドームの配布等）について把握・整理する。</p> <p>2-3：同州で HIV/AIDS 分野で活動を実施している関係機関を巻き込んだワークショップを実施し、IEC 教材普及のための参加型活動計画を策定する。</p> <p>2-4：ICS 及び関連機関を対象とした、HIV/AIDS 教育及び性的活動に係る、モニタリング・評価を含めた基礎的・持続的な研修を実施する。</p>
--	--

第2章 終了時評価の方法

2-1 評価グリッドの作成

終了時評価では、プロジェクトの実績と実施プロセスを把握し、特に妥当性・有効性・効率性などの観点から、プロジェクトがめざしていた目標が達成されたかどうかを総合的に検証することを目的としている。本評価では、達成度、実施プロセス、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性の項目ごとに、具体的評価質問を組み込んだ評価グリッドを作成し、それを用いて評価を行った。評価グリッドは、2006年7月署名のR/Dに添付されたPDMを基に作成された。評価グリッドの内容と本評価での使用については、事前にモザンビーク側からの合意を取り付けている。

評価5項目の視点は次のとおりである。

妥当性	プロジェクト実施の必要性、正当性に関する評価 <ul style="list-style-type: none"> ➤ プロジェクト目標、上位目標が、政府の開発目標や受益者ニーズに合致しているか。 ➤ 日本およびJICAの政策や事業計画との整合性はあるか。 ➤ モザンビークにおける当該セクターに対するアプローチの選択肢として適切か。
有効性	プロジェクトの効果に関する評価 <ul style="list-style-type: none"> ➤ プロジェクトの実施が、受益者や社会に便益をもたらしているか。 ➤ アウトプットおよびプロジェクト目標の評価時点での達成状況および将来達成する見込みはあるか。
効率性	プロジェクトの効率性に関する評価 アウトプットの達成度と活動は適切に設定されているか。 プロジェクトのアウトプットと投入の関係において、資源が有効に活用されているか。 投入の時期、質、および規模は適切か。
インパクト	プロジェクトの長期的、波及的効果に関する評価 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 上位目標の発現および当該国の開発計画へのインパクトは見込めるか。 ➤ 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。 ➤ プロジェクトが実施されることによる直接的、間接的な正負のインパクトが生じているか。
自立発展性	プロジェクト終了後の便益・開発効果の持続性に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 援助の終了後、プロジェクトで発現した効果が持続するか。 ➤ 政策、財政、組織、制度、技術などの側面において、プロジェクトで実施された活動が継続的に行われるための基盤、支援があるか。

2-2 評価実施方法

本終了時評価では、プロジェクト関係書類の分析、現場視察、プロジェクト関係者との面談、

ヒアリングなどにより、評価調査を実施した。

2-2-1 現場視察

ソファラ州のブジ郡、ニャマタンダ郡、ドンド郡、ベイラ市と各対象サイトを訪問し、演劇を通じた HIV/AIDS 啓発活動やコミュニティラジオを活用した討議等プロジェクトにおいて実施されている IEC 活動を視察した。

2-2-2 プロジェクト関係者との面談・協議

日本人長期専門家に加え、国家エイズ対策委員会、ソファラ州エイズ対策委員会、プロジェクトにかかわった現地コンサルタントや現地 NGO 等を対象としてインタビューを行った。

2-2-3 情報・データ収集方法

モザンビーク政府発行資料、専門家報告書、プロジェクト作成資料、インタビュー等により情報・データを収集した。

第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

3-1 投入

日本側

以下に、2010年2月現在のプロジェクトに対する日本側からの投入を示す。詳細は英文合同評価報告書の Annex 2 を参照のこと。

構成	投入
長期日本人専門家の派遣	派遣せず
資機材の提供	11,555,000 円
地方活動費の提供（コンサルタント料および NGO へのマネジメント料を含む）	31,345,000 円
合計	42,900,000 円

モザンビーク側

以下に、2010年2月現在のプロジェクトに対するモザンビーク側からの投入を示す。詳細については英文合同評価報告書の別添資料 2 を参照のこと。

- カウンターパートの配置
- プロジェクトの事務所を含む土地および施設の提供
- 運営費用の歳出予算計上
- 研修およびセミナー開催の準備

3-2 活動実績

プロジェクトの活動実績を以下に示す。

成果 1	
HIV/AIDS 教育の強化を通して、若年者の HIV/AIDS 問題に関連した知識・態度・行動のレベルが改善する。	
活動	達成事項
1-1 若年者を対象とする KAP 調査を実施し、プロジェクトの開始時と終了時の結果を分析する。	2007年10月から第1回 KAP 調査が基礎調査としてソファアラ州の3郡（Berica 市、Caia 郡および Marromeu 郡）で実施された。これらの郡は、都市部と郊外のバランスおよび HIV/AIDS 罹患率を考慮して選択された。影響調査としての第2回 KAP 調査は、同郡で2009年11月に実施された。
1-2 大人グループ（子供の	若者の性的活動に関する大人グループの認識を調査するため、大

<p>親、コミュニティリーダー、宗教指導者、伝統的治療師、教師、政府関係者等)に対して、若者の性的活動にかかわる調査を実施する。</p>	<p>人グループに対しても KAP 調査を行い、また、伝統的指導者、治療師、宗教指導者、各郡の政府当局等の指導者の特定を行った。</p>
<p>1-3 活動 1-2 の結果をもとに、大人グループを対象とした、HIV/AIDS 削減における家庭及びコミュニティの関与の必要性の認識向上に係るワークショップを開催する。</p>	<p>活動 1-2 の結果をもとに、以下の活動が実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Nhamatanda 郡と Caia 郡（州の北部と南部）における大人指導者 78 人（治療師、看護師、宗教指導者）の認識向上に係る 2 回のワークショップ。 - Gorongosa 郡と Buzi 郡におけるコミュニティの主要なポスト 35 人の意識向上に係る 2 回のワークショップ。 - Berica 市におけるソファラ州の全郡の長 13 人の意識向上にかかる 1 回のワークショップ。
<p>1-4 既存の IEC 教材の評価を行い、「コミュニケーション戦略」の精神に則った新規教材のニーズを把握する。</p>	<p>IEC 教材の評価は現地コンサルタント会社（KULA consultores, Lda）によって 2008 年 3 月に行われ、IEC 教材を新しく作るのではなく既存 IEC 教材（映画）を現地語（セナ語およびンダウ語）に翻訳するという提言を受けた。</p>
<p>1-5 活動 1-1 から 1-4 の結果をもとに、若者及び大人グループを対象とした IEC 教材を作成する。</p>	<p>活動 1-1 から 1-4 で行われた評価の結果を踏まえ、現地コンサルタント会社（Austral Cowi）が、2008 年 11 月までに、AIDS に関する州当局（NPCS）の指導のもと、ポルトガル語のフィルム二種類を現地語（セナ語およびンダウ語）に翻訳した。フィルムの題名は Eclipse と Vidas Partilhadas である。これらは 2008 年 12 月から使用されるようになった。</p>
<p>1-6 若者及び大人グループを対象に、IEC 教材及び VCT やコンドーム配布等の利用可能なサービスに係る情報を普及させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - IEC 活動用に供与された機器を利用し、プロジェクトは、2009 年 5 月から、プロジェクトが翻訳した映画やその他の既存の映画を使用して 86 単位の移動セッションを行なった。セッションは、13 郡 36,710 名にメッセージを伝えた。 - 2009 年 4 月から、プロジェクトは、プロジェクトが作成したポルトガル語の HIV/AIDS 予防のためのメッセージ入りポスター 360 枚を配布した。 - IEC 機器の維持管理能力を強化するため、2009 年 2 月に郡レベルの AIDS コーディネーター 11 人に対し 1 回のワークショップが実施された。

<p>1-7 若者、大人グループ、HIV 感染者グループを巻き込んだ参加型検討会を開催し、普及させるべき内容・メッセージに係るコンセンサスを得る。</p>	<p>-郡の代表者 13 人のため Berica 市で開かれたワークショップおよび大人指導者のため郡レベルで開かれたワークショップにおいて、現地の人々に適切なメッセージをどのように伝えるかが討議された。この活動は 2009 年 1 月に実施された。</p> <p>- 既存 IEC 教材の評価について報告する KULA consultores, Lda のプレゼンテーションで、どのメッセージを映画で明確化し普及させるべきかが討議された。この活動は 2008 年 3 月に開かれた。</p> <p>- 2009 年 1 月から 2010 年 1 月まで、ラジオ番組による参加型検討会が 14 回、様々な対象グループに対し現地語のコミュニティラジオを利用して実施された。</p> <p>-マスコミによるメッセージ普及強化のため、2009 年 3 月に、報道系（ラジオ、TV、新聞）の 20 のチャンネルを巻き込んだワークショップ 1 回が開かれた。</p>
---	---

<p>成果 2 CNCS および ICS のプログラム実施能力が強化され、活動におけるその他組織との連携が育まれる。</p>	
活動	達成事項
<p>2-1 ソファアラ州で若者向けの HIV/AIDS 教育分野で活動（リプロダクティブ・ヘルスの専門家や、劇、音楽等を含む保健人材）を行っている機関について把握する。</p>	<p>- 参加型検討会と調査を通じ Haya Haya 劇団という演劇グループが見出され、コミュニティで演劇を通じた HIV/AIDS の危険や予防法等の普及に活用した。この演劇グループは 17 回上演し、様々な対象グループので合計 6,642 名が参加した。</p> <p>-参加型検討会と調査を通じ、Geração BIZ、SAAJ（保健）、Associação de Luta pela Vida、Associação de Líderes Comunitários（ALCAP）、AJCI 等の 5 つの CBO（コミュニティを拠点とする組織）が見出され、プロジェクトで活用した。彼らは 13 郡全部で移動ユニットを実施し、保健機関のコンドーム提供の支援を行った（約 300,000 個のコンドームが演劇を通じて郡の政府およびコミュニティに配布された）。</p>
<p>2-2 ソファアラ州で若者向けの HIV/AIDS 教育分野の関連施設（VCT センター等）や利用可能なサービス（コンドームの配布等）について把握する。</p>	<p>-上記のとおり、5 つの CBO とそれらのインフラ設備を確認し、プロジェクトで活用した。</p> <p>-プロジェクトでは、郡政府と保健ユニットの施設を活用した。IEC 活動では、活動に必要な機材はプロジェクトから 13 郡に供与され、IEC 機器の維持管理能力の強化のためプロジェクトによる郡での訓練が行われた。</p>

<p>2-3 HIV/AIDS 問題に取り組むその他関係機関を巻き込んだワークショップを実施し、IEC 教材普及のための参加型活動計画を策定する。</p>	<p>プロジェクトの依頼を受けた現地コンサルタント会社（Austral Cowi）が HIV/AIDS に取り組む政府機関や現地 NGO、国際 NGO 等の関係機関の参加協力を得て作成した IEC 普及計画について、Beira で 1 回のワークショップを実施した。</p>
<p>2-4 ICS およびその他関連機関を対象とした、HIV/AIDS 教育及び性的活動に係る、モニタリング・評価を含めた基礎的・持続的な研修を実施する。</p>	<p>- 大人指導者 78 人（治療師、看護師、宗教指導者）の意識向上のため、2009 年 7 月までに Nhamatanda 郡および Caia 郡（州北部と南部）で二回のワークショップを開催した。</p> <p>- Gorongosa 郡および Buzi 郡のコミュニティ主要 35 名の意識向上のため、2009 年 11 月までに 2 回のワークショップを開催した。</p> <p>-活動のモニタリング、評価を含め HIV/AIDS 教育に係るソファアラ州の全郡代表者 13 名の指導力強化のため、Beria 市で 1 回のワークショップを開催した。</p> <p>事前および事後試験や、結果分析を反映した活動が行なわれていないため、ワークショップの効果測定のためのデータはない。</p>

3-3 成果の達成状況

1) 成果 1

成果 1 は、部分的に達成された。KAP 調査により、プロジェクト活動開始後 2 年で若者の HIV/AIDS 問題に関する知識、態度および行動について幾分の改善があったことが確認された。ソファアラ州の HIV/AIDS 罹患率はプロジェクト期間中に減少しているが、プロジェクトは、知識、態度および行動の改善を明らかにするために十分なサンプル量で KAP 調査を実施出来ていない。

成果 1 の達成度を以下に示す。

<p>【成果 1】 若者の HIV/AIDS 問題に関する知識、態度および行動のレベルが HIV/AIDS 教育の強化を通じて改善される。</p>	
<p>指標</p> <p>2010 年までに、HIV/AIDS 問題に関し、プロジェクトの開始時と比較してより高いレベルの知識、態度および行動が若者の間に確認される。</p>	<p>達成度</p> <p>KAP 調査により、2007 年から 2009 年までの 2 年間で以下の改善が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 若者の検査を受けようという意志が 2007 年の 30%から 2009 年の 93.4%に、63.4%増加した。 ▶ コンドームの使用が 2007 年の 35%から 2009 年の 35.8%に、0.8%増加した。

	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数の性的パートナーを持つ人が 2007 年の 33%から 2009 年の 30.7%に、2.3%減少した。 ▶ 初性交渉年齢が 2007 年の 15 歳から 2009 年の 17 歳に、2 歳上昇した。
--	---

2) 成果 2

成果 2 はほぼ達成された。プロジェクト実行方法が変更され、ICS は実施スキームから実質的に除外された。方法の変更後、より効果的で持続可能な実施体制が NPCCS と現地 NGO の主導によって構築され、IEC 活動実施能力と他の組織との連携の改善を促進した。

成果 2 の達成度を以下に示す。

【成果 2】	
CNCS および ICS のプログラム実施能力が強化され、活動における他の組織との連携が促進される。	
指標 Objectively Verifiable Indicators	達成度 Achievements
2010 年までに、ICS がソファアラ州において少なくとも 3 つ以上のパートナー組織と合同で通常活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プロジェクトは NPCCS によって管理、監督された。プロジェクト開始当初は、実質的な IEC 活動は ICS により実行された。しかしながら、ICS による活動が満足できるものではなく非効率であったため、プロジェクト実行体制を変更し、現地 NGO (Christian Council of Mozambique (CCM)) と IEC 活動の管理にかかる契約を結んだ。 ▶ NPCCS および CCM は、5 つの CBO や Haya Haya 劇団等のその他関連組織とネットワークを構築し、郡レベルの HIV/AIDS 担当者が IEC 活動を通常活動として実施できるよう能力強化を実施した。

3-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクトは、性的パートナー数の減少およびコンドーム使用率の増加に向けた取組みを実施したが、予定された活動の大幅な遅延のため、プロジェクト目標の達成は限定的であると考えられる。

しかしながら、性的パートナー数の減少、初性交渉年齢の上昇や PLWHA に対する差別的態度の減少に関して前向きの変化が見られることを考慮に入れると、プロジェクトの終了までにはプロジェクト目標を部分的に達成することが期待される。また、コンドーム使用のわずかな上昇は、改善の端緒であると考えられる。

プロジェクト目標の達成度を以下に示す。

【プロジェクト目標】	
ソファラ州において、コンドーム使用率の向上、性的パートナー数の減少、初性交渉の遅延に向けた若年者の行動変容が起こり、PLWHAに向けた差別的態度も緩和される。	
指標	達成度
1. 2010年までに、プロジェクト開始時と比較してソファラ州の若年者の最終性交渉時のコンドーム使用率が10%上昇する。	2007年のKAP調査ではコンドーム使用率は35%であったが、2009年には35.8%となった。2年でコンドーム使用率はわずかに上昇した。
2. 2010年までに、プロジェクト開始時と比較して性交渉パートナー数の平均が減少する。	2007年のKAP調査では複数の性的パートナーを持つ人々の割合は33%であったが、2009年には30.7%となった。2年間で2.3%の減少が見られた。
3. 2010年までに、初性交渉年齢の平均/中央値がプロジェクト開始時と比較して上昇する。	2007年のKAP調査では初性交渉年齢の平均は15歳であったが、2009年には17歳であった。2年間で2歳上昇した。
4. 2010年までに、PLWHAに対する差別的態度が若年者で10%改善する。	若年者の差別的態度は、平均率がプロジェクト開始時の97.5%から2009年には88.2%に9.3%減少したことを考慮に入れると、2010年までに達成できると考えられる。

3-5 実施プロセスの検証

3-5-1 プロジェクト活動の進捗

プロジェクト活動は活動計画（Plan of Operation : PO）に沿って実施されたが、計画されたプロジェクト活動は、全般的大きく遅延し、約1年の遅れがあった。詳細は、「4-3 効率性」で述べる。

3-5-2 プロジェクトマネジメント

プロジェクト期間の初期段階では、関係機関同士のコミュニケーションと協力関係には大きな問題が生じていた。詳細は、「4-3 効率性」で述べる。

3-5-3 オーナーシップおよび自律性

日本人専門家が派遣されなかったこともあり、CNCS、NPCS、CCM の間のプロジェクトのオーナーシップと自律性は必然的に培われ、プロジェクト活動の実行を通して彼ら自身に責任の自覚を促した。同様に、CBO やコミュニティ指導者等、プロジェクトにかかわるその他関係者も非常に協力的であった。

第4章 評価結果

4-1 妥当性

以下に示す理由から、プロジェクトの妥当性は、終了時評価時点でも高く維持されている。

1) モザンビークにおける HIV/AIDS 関連保健政策および対象グループのニーズとプロジェクト目標の一致性

HIV/AIDS は、人間の安全保証の根幹を大きく脅かす地球的規模課題の一つとして認識されている。実際に HIV/AIDS は、モザンビークを含むサハラ砂漠以南のアフリカ諸国にとって致命的な脅威である。事実、その地域の住民は全世界の人口のわずか 11% であるにもかかわらず、HIV 陽性者は、同地域で全世界の HIV 人口の約 64% を占める。モザンビークの HIV 罹患率は近隣のザンビア (19.1%)、スワジランド (18.5%)、マラウイ (14.9%) と比較して抑えられているものの、モザンビークにおける HIV 罹患率は、2007 年のプロジェクト開始時、全国平均で約 16.2% と推計されている。この危機に対して CNCS は、HIV/AIDS 国家戦略 2005-2009 のもと、HIV/AIDS 対策のための分野横断的且つ包括的な対策計画に着手した。高リスクグループとして考えられる若者世代を対象とした IEC 活動を含むこの計画は、「予防」、「アドボカシー(政策提言)」、「汚名と差別」、「治療」、「緩和」、「調査」および「コーディネート」の 7 つの重点項目から構成されている。

プロジェクト活動の対象地域であるソファアラ州は、2007 年において全国平均よりも 7% 高い 23% と、モザンビークにおける HIV 罹患率が最も高い州の一つである (表-1)。さらに、ソファアラ州は、「ベイラ街道」という主要な幹線道路を擁する大都市であり、HIV の流行に対し非常に脆弱であると考えられる。

終了時評価調査の時点で、HIV/AIDS 対策のための次の戦略的計画はまだ準備中であるが、HIV/AIDS 抑制の重要性はいささかも減じられないことを CNCS に対し口頭で確認している。したがって、感染に対して脆弱な若者世代を対象として、コミュニティを巻き込んだかたちでソファアラ州における IEC の強化をめざすプロジェクトは、政治的、地理的、戦略的観点からも妥当であると考えられる。

表-1

Table 1: Regional Trend of HIV Prevalence in Mozambique

Region	HIV Prevalence		
	2004	2007	2009
Mozambique	16	16	15
Southern	19	21	21
Maputo	22	26	NA
Maputo City	21	23	NA
Gaza	25	27	NA
Inhambane	10	12	NA
Central	19	18	18
Sofara	24	23	NA
Tete	14	13	NA
Zambezia	18	19	NA
Manica	16	16	NA
Northern	9	9	9
Cabo Delgado	9	10	NA
Nampula	9	8	NA
Niassa	8	8	NA

Reference: Revised Report of Epidemiological Data on HIV, Round 2007, National Programme of STI/HIV/AIDS Control, National Directorate of Medical Assurances, Ministry of Health, Republic of Mozambique, February 2008.

NA: Data Not Available

2) 日本の援助方針および JICA の国別支援実施方針とプロジェクト目標の一致性

わが国の援助政策において、2008 年 第 4 回アフリカ開発会議 (TICAD IV) で採択された横浜行動計画にも、感染症対策や保健人材育成を含む保健分野は優先分野と位置づけられている。同様に、日本の政府開発援助 (ODA) の主要実施機関である JICA は、自立発展性を担保する

ための能力開発を重視し、主に中央政府および地域政府、その他にコミュニティレベルでも協力を実施している。コミュニティレベルでは、JICAは、現地NGOに対する支援、およびカウンセリングと検査（VCT）の導入を通して、HIV/AIDSの予防と意識向上を推進している。

さらに、2009年8月に発行されたJICAの「モザンビーク国 事業展開計画」においても、保健人材不足と教育不足は喫緊の課題として明記されており、本プロジェクトは援助重点分野の1つである「人的資源開発」の「基礎保健改善プログラム」に位置づけられている。

したがって、CCM（現地NGO）に対する支援を通してCBOを巻き込みながらコミュニティレベルでのIEC強化をめざす本プロジェクトは、日本の援助方針およびJICAの国別支援実施方針との整合性は高い。

3) 援助実施方法の適切性

IEC強化をめざしたプロジェクト目標を達成するために、NPCSのプログラム実施能力の向上およびCBOやコミュニティ関与の強化（成果2）を伴ったHIV/AIDS教育の強化（成果1）を通して、若年者のHIV/AIDS問題に関する知識、態度および行動のレベル向上のためのプロジェクト活動を実施することに、論理的誤りはない。

2007年10月からサンプリング地域としてBeira, CaiaおよびMarroneuの各コミュニティで実施された第1回KAP調査は、プロジェクト活動開始時の基礎調査として現状分析に有効に活用された。2009年11月に実施された第2回KAP調査では、HIV/AIDSに関する知識、態度および行動に対するプロジェクト活動の正負の影響が測定された。両調査とも、効率的に実施され正確な分析が行われたものと評価出来るが、一方で、資金的な制限のため、調査サンプル数は2007年に160、2009年に212と、ソファアラ州の実態を外挿するには「検出力」（統計用語として）が小さすぎる。特に、対象人口が10,000を超える場合、1,300から1,500のサンプルを調査することが統計学的に必要である。

セミナーや研修棟の活動は、ジェンダーバランスを考慮し、女性、男性の双方に対して実施された。また、プロジェクト活動では、伝統的指導者および宗教指導者の巻き込みや現地語のIEC教材の製作等、モザンビークの社会制度に配慮して実施された。

4-2 有効性

以下の理由から、プロジェクトの有効性は、終了時評価の時点で平均して中程度であると考えられる。

1) プロジェクト目標の達成

プロジェクトは、プロジェクト目標として、若者世代の行動の変容を促進し、CBOやコミュニティを巻き込んだかたちでHIV新規感染者数の拡大を防ぐことをめざす。プロジェクト目標の達成度を測定する指標は、1) 最終性交渉時のコンドーム使用率の10%上昇、2) 性的パートナー数の減少、3) 初性交渉年齢の上昇、および4) PLWHAに対する若者の差別的態度の緩和とされている。

プロジェクトの達成度の評価を評価原則に厳密に則り指標の達成の観点からは、プロジェクトの達成度は、終了時評価時にはかなり限定的であると考えられる。知識、態度および行動は依然として不十分と考えられる（表-2）。IEC活動に含まれていないが、回避がHIVの伝染を防

表－2

Table 2: Results of KAP studies in 2007 and 2009

Dimension	Indicator	Results	
		2007	2009
Knowledge	% of those who previously heard about HIV/AIDS		97.6%
	% of those who prefer radio as a access method for HIV-related information	66.9%	66.6%
	% of those who know the principal forms of HIV transmission		
	Blood		89.2%
	Sexual		97.9%
	% of those who believe Pitakupa transmits HIV		85.8%
	% of those who believe HIV is transmitted by cutting-perforating objects	96.0%	94.3%
	% of those who believe circumcision prevents HIV		80.5%
	% of those who think pregnant women could transmit HIV to their babies	80.9%	89.0%
	% of those who acknowledge condom prevents HIV transmission	91.5%	90.6%
	% of those who know someone with HIV		38.7%
	% of those who know someone with AIDS		36.8%
	% of those who know how to differentiate HIV/AIDS		88.4%
% of those who know AIDS has no cure		66.8%	
Attitude	% of those who would reveal their serologic status		79.2%
	% of those who could live with seropositive family members	97.8%	89.2%
	% of those who could socialize of seropositive friends	93.3%	95.6%
Practice	% of those who gave an indication of willing to receive HIV tests	30.0%	93.4%
	% of those who have educated sex	72.0%	92.0%
	Age of sexual debut	18 years old	17 years old
	% of those who have more than one sexual partner	33.0%	30.7%
	% of those who always use a condom during the sexual intercourse	49.0%	35.9%

Reference: MG Consultants, Ltd. Final report of KAP Study, November 2009. (English and Swahili) were partially modified by the Terminal Evaluation Team.

くと考えている回答者の割合は 50.5%と高い。また、コンドームが HIV の伝染を防ぐと考える回答者の割合は、2007 年の 91.3%から 2009 年は 90.6%と悪化が見られた。さらに、現地調査から、一部の住民、特に遠隔地では、HIV が「コンドームによって」伝染すると信じるという決定的な誤解も認められるようである。態度については、HIV 陽性者と付き合うことができるかと回答した割合は確実に改善したが、HIV 陽性の家族と暮らすことのできたとした回答者の割合は 9.3%と逆に減少している。

他方、第 2 回 KAP 調査ではいくつかの指標の改善に成功している。HIV 検査を受ける意志を示した回答者の割合は、プロジェクトの実施を通して 2007 年の 30.0%から 2009 年は 93.4%と大きな上昇を示したことは、特に注目し得る。さらに、「教育された」性交渉を行っているかと答えた回答者の割合は増加しているが、一方、性交渉中必ずコンドームを使用する人の割合は、2007 年の 35.0%から 2009

年は 35.8%と、0.8%のわずかな上昇にとどまり、統計的な差異はないと考えられる。この理由として、「教育」という言葉が明確に定義されておらず、コンドームの使用だけでなくパートナーに対する誠意や態度の改善、HIV の予防や伝染の知識等、面接相手により様々な意味を含むということで説明される。コンドーム使用に十分な向上が見られなかった原因として、演劇の上演を通じ約 300,000 個のコンドームが郡政府とコミュニティに配布されたのが 2009 年 9 月からであり、配布後数カ月しか経っていない 2009 年 11 月の第 2 回 KAP 調査時に、行動変容に対するコンドーム配布の効果を十分に得ることは困難であったことが考えられる。本プロジェクトを通して他の援助機関により供与されたコンドームの品質が低く、そのことが若者のコンドーム使用を妨げた可能性も現地調査で得られている。

「4-1 妥当性」で前述したとおり、資金的な制限のため、サンプル数が 2007 年に 160、2009 年には 212 と、調査ソファアラ州の現実を外挿するには「検出力（統計用語として）」が小さい。特に、対象人口が 10,000 を超える場合、1,300 から 1,500 のサンプルを調査することが統計学的に必要である。また、いくつかの質問項目は質問意図が明確でなかった。質問項目については、それらが知識、態度および行動を正確に測定するため適切に設定されているかどうか、KAP 調査に専門性を有する人材が事前に検討する必要があると考えられる。さらに、プロジェクトは、2007 年と 2009 年の結果の違いが本プロジェクトの実施によって導きだされたものであるかを統計的証拠を以て理解できるよう、措置を講じる必要があると考えられる。

2) 外部条件

- ① 「性教育が **sexual health** に関連した広範囲のコンテクストを伴った長期的プロセスであり、若者の成長に伴って特異的なものとなると認識される。」

プロジェクト期間中、この前提条件の悪化はなく、影響も観察されていない。NPCS だけでなく CNCS も、それらの教育的見解を広めるために、プロジェクトの中止後もこの外部条件を維持するよう必要な措置をとる必要がある。

- ② その他の外部条件

高い離職率は、しばしばモザンビークで実施される技術協力において重要な外部条件として認識される。しかしながら、プロジェクト期間中に異動、辞職および退職はほとんどなく、終了時評価時点ではプロジェクト活動の実施に対する離職率の影響はなかった。

3) 有効性への促進要因

プロジェクト実施体制の再構築は、プロジェクト活動促進に有効に寄与した。体制の再構築後、プロジェクト進捗のモニタリング体制に関して JICA、NPCS、CCM の間のコミュニケーションが改善されている。詳細は、「4-3 効率性」に示す。

4) 有効性に対する阻害要因

プロジェクト活動の遅延は、プロジェクト活動の実施を阻害した。第 2 回 KAP 調査で確認された不完全な指標達成度と不十分な結果は、この遅延に起因したものと考えられる。詳細は、「4-3 効率性」に示す。

4-3 効率性

プロジェクト活動の大幅な遅延によりプロジェクト効率が減じられ、プロジェクト効率性は終了時評価の時点で低位中程度と判断される。

1) プロジェクト活動の進捗管理

各プロセスの活動は活動計画 (PO) に沿って実施されたが、予定されたプロジェクト活動は、全体的に大幅に遅延した。遅延の理由としては、プロジェクト期間の開始年のほとんどが、プロジェクトの基礎準備としての PDM 最終決定や第 1 回 KAP 調査の実施に費やされ、その結果としてプロジェクト活動が全体的に遅延したことなどが考えられる。このため、プロジェクト活動の実際の実施期間は、2 年間に大幅に短縮されたと見なすことができる。したがって、計画された活動が全て実施出来ても、第 2 回 KAP 調査の時点で対象グループに満足な行動変容を促すには短すぎたと考えられた。

プロジェクト期間の初期には、関係機関内のコミュニケーションおよび協力関係に問題があった。詳細には、プロジェクト活動の実施機関である ICS と、NPCS/CNCS 並びに JICA モザンビーク事務所の間に深刻な管理運営上の問題が存在した。ICS は再三の要請にもかかわらず、プロジェクト関連情報およびデータ報告義務を履行しなかったため、活動計画 (PO) に沿ったプロジェクト活動の実施を阻害する結果となった。

これらの困難な状況に対応し、プロジェクトは実施体制を再構築、整理統合し、プロジェクト

ト活動としての現地 NGO である CCM と IEC 実施を条項とする契約を締結した。プロジェクト実施体制を再構築したことにより、NPCS および JICA モザンビーク事務所による頻繁なモニタリングと評価のもとプロジェクト活動は活性化したが、プロジェクト活動の実際の開始は、スケジュールからほぼ 1 年の遅延が認められた。しかしながら、PDM において規定されている活動は、プロジェクト関係機関のコーディネートと管理のもと、プロジェクト期間に全て実施された。

さらに、プロジェクト対象地域は JICA モザンビーク事務所と CNCS の所在地であるマプト市から離れており、また技術協力プロジェクトの規定によりカウンターパート組織に予算を直接分配出来ないことから、プロジェクト管理は、予算管理と進行管理の面で多くの困難が生じていた。プロジェクト管理を CCM に委託することで状況は大幅に改善されたが、JICA および CNCS による遠隔管理のもとでプロジェクトのコーディネートを効率的に実施するためには、日本人専門家の派遣等も考慮される必要があったものと考えられる。モニタリングは、NPCS および JICA による直接観察や、進捗報告などを通じて頻回に行われた。また、実施方法の改善後、活動のモニタリングや関係者との調整会議を通じた JICA、NPCS、CCM 間の密接なコミュニケーションにより、問題解決がより容易となった。

2) 供与された資機材の有効利用

パンフレットやポスター等の資材はすべてコミュニティに配布され、移動ユニットセッションでは翻訳された IEC 啓発のための映画が有効に活用された。

プロジェクト管理のため供与機材（自動車、コンピュータ、等）および郡の IEC 実施能力強化のため供与されたもの（カメラ、ラップトップ、プリンタ、プロジェクタ、DVD、発電機）は、十分に活用されている。しかしながら、ICS が使用していた機器類（ビデオカメラ他）については、NPCS および CNCS にはそれらを管理する技能を持った人材がいなかったため、ICS から NPCS に引き継いだ後は使用されていない。

3) 既存リソースとの連携

① 日本のリソースとの連携実績

JICA プロジェクト、青年海外協力隊（JOCV）等、日本の他のリソースとの連携実績はなかった。

② その他のリソースとの連携

プロジェクトでは、UNICEF、WHO、ITALIAN COOPERATION との会議や、ソファアラ州で HIV/AIDS に取り組む国内 NGO および国際 NGO のワークショップへの招待を通じて、プロジェクト活動の計画段階で他のパートナー機関の巻き込みを試みている。具体的には、ITALIAN COOPERATION も HIV/AIDS に係る移動ユニットセッションを実施しており、経験情報の共有を目的として現地訪問に招待している。同組織からは、セナ語に翻訳された映画「History of Miner」のコピーを提供されている。

4) 効率性への促進要因

プロジェクトは、「3-4 プロジェクト目標の達成状況」で述べたとおり、プロジェクトの

実際の実施期間としては2年という限られた時間にもかかわらず、ポルトガル語から現地語に翻訳された映画の上映、ラジオセッション、様々なテーマ・様々な対象に対するワークショップなど、コミュニティで多くの活動が実施されている。また、コミュニティ、CBO、その他のプロジェクト関連機関の関与は本プロジェクトの強みであると考えられる。NPCS および CCM は、HIV/AIDS を担当する郡レベルの能力強化を実現し、IEC 活動を通常活動として実施できるようにするため、5つのCBO および Haya Haya 劇団等のその他関連俳優らとコミュニティベースのネットワークを構築している。HIV/AIDS 対策のための IEC 関連活動のネットワークはプロジェクト活動の効率的な実施に貢献しており、将来的にソファアラ州の HIV 罹患率の改善に寄与するものと考えられる。

5) 効率性に対する阻害要因

遅延の理由として、日本とモザンビークの会計年度の違いも一因と考えられる。日本の会計年度は4月開始であるが、モザンビークでは1月であり、5カ月の違いが効率的な予算措置に影響を及ぼしたのと考えられる。

2009年11月に大統領選挙が行われ、選挙前の45日間の選挙運動期間中は政府関係機関が十分に機能していなかった。選挙運動および選挙期間は、プロジェクト活動が一時的に停滞した。

4-4 インパクト

プロジェクトの実施に伴い、以下のような正負のインパクトが確認または予測される。

1) 上位目標達成の可能性

若者世代に対するIEC強化活動の実施を通してソファアラ州のHIV罹患率の減少を期待することに、論理的な誤りはない。また、HIV罹患率のわずかな減少はすでに観察されている(表2)が、プロジェクト範囲外の外部因子の存在が示唆されることから、減少に対するプロジェクトの直接的影響を測定することは困難である。また、プロジェクト活動は15歳から24歳の若者世代に焦点を絞ったものであったが、映画の公開上映やラジオセッションもコミュニティで実施され、若者世代だけでなく、学校の生徒や青年・大人世代に対しても裨益しているものと考えられる。しかしながら、プロジェクト期間内に達成できない問題や、プロジェクトで取り扱っていない必要な他の活動の問題も、罹患率減少のためには取り組みが必要である。

前述したとおり、正確な外挿という観点からデータの質を担保するためには、3年から5年間隔で1,300から1,500の有効な「検出力」をもったKAP調査を追加実施していくことが必要と考えられる。さらに、若者世代だけでなく社会に対しても知識、態度および行動について確かな影響を引き起こすためには、現在の活動が継続的に実施される必要がある。

他方、主要幹線道路である「ベイラ街道」を有するソファアラ州は、その他の州やその他の国からの移動労働者や移民が多く、これらは主要なHIV伝播者の一つと考えられる。また、抗レトロウイルス治療(ART)や、検査のリファラルシステムや品質保証、HIV検査サービスの提供、食養など、その他の重要な外部因子に関しては、HIV罹患率の減少だけでなく、モザンビークにおけるHIV/AIDSの総合的な状況改善のためにも、内外の関係機関との連携した取り組みを考慮する必要がある。

これらのことは、現在の活動が継続的に実施されることを前提となるため、プロジェクトか

ら生じる便益の維持拡大、その結果として期待されるソファアラ州での HIV/AIDS 罹患率 5%減少という上位目標の指標達成には、継続的な財政支援および技術支援が必要と考えられる。また、HIV 罹患率の減少に対する影響を促進するためには、HIV 罹患率の減少へ向けた多国間、多セクター間の協力した取組みが考慮される必要があると考えられる。

2) 上位目標への外部条件

① 「コンドームが十分に提供されている」

CNCS、保健省および州政府は、特に女性に対するコンドーム可用性を向上するため、遠隔地に対するコンドームの配布を推進することを期待される。しかしながら、配布されるコンドームが利用者に進んで使用されるためには、一定の品質レベルを満たしたものである必要がある。

② 「若年者の収入発生活動及び娯楽へのアクセスがある。」

モザンビーク当局とその関係機関は、HIV/AIDS 問題を分野横断的問題として認識しており、全力でこの問題に取り組んでいる。新政府でも引き続き地方および遠隔地の開発を優先課題とするものと考えられ、ソファアラ州での収入発生活動および娯楽へのアクセスも維持されることが期待される。

3) その他のインパクト

前述したとおり、HIV/AIDS 関連問題は分野横断的と認識されていることから、IEC 活動の改善を通じて関係機関内相互に正のインパクトが期待される。

4-5 自立発展性

小規模であっても継続的支援が何らかの方法で得られれば、プロジェクトによりもたらされた便益の自立発展性や自立的な展開も一定程度期待できる。

1) 政策的、制度的側面

「4-1 妥当性」で述べたとおり、IEC 活動の強化はモザンビークの重要な保健政策の一つとされており、IEC 活動の重要性は一定期間、維持されることが大いに期待される。CNCS は、HIV/AIDS 国家戦略（2005-2009）のもとで、HIV/AIDS 対策ための分野横断的且つ包括的な対策計画を示しており、高リスクグループとして考えられる若者世代を対象とした IEC 活動を含むこの計画は、「予防」、「アドボカシー（政策提言）」、「汚名と差別」、「治療」、「緩和」、「調査」および「コーディネート」の7つの重点項目から構成されている。チームは、IEC を含むそれらの原則は次の計画または戦略で縮小されることはない点を口頭で確認した。

「ベイラ街道」という主要幹線道路を擁するソファアラ州は、HIV の流行に対し脆弱な地域と考えられており、ソファアラ州の HIV 罹患率は近年わずがに減少しているが、HIV 予防へ向けた地理的重要性は変わらない。

2) 財政的側面

政治的支援は他の州と等しく継続することが期待される一方で、現在の活動を維持するため

追加的な予算は配分されないものと推察される。しかしながら、中央政府の政策として地方分権化のプロセスにおいて、財源を自律的に計画することを州および郡に許可しているため、ソファラ州および各郡が今後 HIV/AIDS 問題を優先課題とすれば、一定の予算配分は期待できる。

他方、プロジェクトにより提供された IEC 活動用機材のほとんどは、郡レベルで十分に機能しているが、屋外上映会用のアンプや大型スピーカー等、修理または新規購入すべき機材がいくつか確認されている。また、一方で、移動サービスのための基本的装置や教材はプロジェクトにより適切に整備され、活動は、コミュニティを含む既存資源を有効に利用して実施されているが、劇団の派遣費用や輸送費等、地方遠隔地域への IEC 移動サービスは一定の予算が必要である。

これらの状況をかながみるに、プロジェクトにより生み出された便益の自立的な発展・展開が何らかの継続的財政支援なしで確保できるかは困難であると推察される。プロジェクトおよびソファラ州関係機関は、プロジェクトの便益の自立発展性のため必要な措置について財政的観点から討議、整理しておく必要があると考えられる。

3) 技術的側面

NPCS は、プロジェクト当初より同じコーディネータおよびカウンターパートに業務を割り当て、一切の離職なくプロジェクトを実施している。現地報告およびモニタリング（現地訪問）により、彼らが積極的にプロジェクトに従事していることが確認されている。よって、IEC 活動に係る NPCS の管理能力は、プロジェクトの実行を通じ十分に強化されたものと考えられる。

しかしながら、ワークショップや映画上映会などの活動の効果測定（可能ならば統計的に）や、KAP 調査およびその詳細な分析の能力を獲得するには、CNCS および NPCS に対し追加的な技術支援が必要であると考えられる。さらに、NPCS はすでに自力で現在の活動を実施する能力を獲得しているものの、モニタリングおよび事前試験・事後試験等から得られた結果を体系的に分析し、日常の活動に生かすには、より一層の能力強化が必要である。したがって、かれらは通常業務として IEC 活動を実施する所定のレベルの能力を獲得したものと認められるが、データの管理と分析に関しまだ技術支援の必要があると考えられる。

4) 総合的自立発展性

製作的、制度的観点から、HIV/AIDS 対策の重要性にかかるプロジェクトの自立発展性は、今後も高く維持される見込みである。しかしながら、IEC 活動を通常業務として実施する一定レベルの能力を獲得した一方で、プロジェクトの実施から得られた便益を維持し、また、質の高いデータ管理能力の一層の向上を促進するためには、小規模であっても継続的な財政および技術支援が必要と考えられる。

4-6 結論

HIV/AIDS 対策における政策対応の重要性は、終了時評価の時点でもモザンビークの保健に関する優先政策の一つとして維持されている。さらに、IEC を含む HIV/AIDS 対策への取り組みは、CNCS および MISAU の次期戦略計画においても優先性は高いものと考えられる。さらに、日本および JICA の援助方針や社会のニーズとの一致性も確認されている。したがって、プロジェクトの妥当性は終了時評価の時点で高く維持されているものと考えられる。

他方、評価原則に厳密に則った指標の達成という面から見た、プロジェクト目標に関する指標の達成度では、プロジェクトの達成事項は、終了時評価の時点で若者世代の知識、態度および行動の改善が不十分であったため、かなり限定される。プロジェクト活動の遅延は、プロジェクト活動の実行を大きく阻害した。第2回 KAP 調査で達成が不完全であり結果が不十分であったことは、この遅延に起因する可能性がある。しかし、プロジェクトは、HIV 検査に対する認識の大きな向上や教育された性交渉等、いくつかの指標の改善には成功した。したがって、プロジェクトの有効性は終了時評価の時点で平均して中程度であると考えられる。

各プロセスの活動は活動計画（Plan of Operation）に沿って実施されたが、予定されたプロジェクト活動は、全体的に大幅に遅延した。遅延の理由としては、プロジェクト期間の開始年のほとんどが、プロジェクトの基礎準備としての PDM 最終決定や第1回 KAP 調査の実施に費やされ、その結果としてプロジェクト活動が全体的に遅延したことなどが考えられる。このため、プロジェクト活動の実際の実施期間は、2年間に大幅に短縮されたと見なすことができるため、実質的な活動期間では満足な行動変容を促すには短すぎたと考えられた。しかし、NPCS および CCM は、5つの CBO およびその他の関係機関らとコミュニティベースのネットワークを築いており、このネットワークは、将来、ソファラ州の HIV 罹患率の改善に貢献することが期待される。以上のことから、プロジェクト効率性は、プロジェクト活動の大幅な遅延によってプロジェクト効率性が低下したため、終了時評価の時点で低位中程度と評価される。

HIV 罹患率のわずかな減少はすでに観察されているが、外部要因の存在のため、減少に対するプロジェクトの直接的影響を測定することは困難である。ソファラ州はその他の州や外国からの移動労働者や移民が多く、それらは主要な HIV 伝播者の一つとなり得る。ART、実験室の照会システムおよび品質保証、HIV 検査サービスの提供、栄養等、その他の重要な外部条件は、HIV 罹患率の減少についてだけでなく、HIV/AIDS の総合的な状況改善に関しても考慮に入れなければならない。そのため、HIV 罹患率の減少に対する確実な影響を促すため、HIV 罹患率の減少へ向けた多国間、多セクター間の取り組みを検討しなければならないと考えられる。

政治的、制度的面から、HIV/AIDS 抑制の重要性に関するプロジェクトの自立発展性は高く維持されるであろう。しかし、プロジェクトの実施から得られた利益を維持し、質の高いデータ管理能力の一層の向上を進めるためには、財政支援および技術支援は、たとえ小規模であっても必要となる。一方、彼らは、IEC 活動を通常業務として実施する所定レベルの能力を獲得した。したがって、何らかの手段によって継続的な小規模の支援が提供されれば、プロジェクトにより提供された利益の自己展開および自律性はある程度期待できる。

結論として、プロジェクトから得られた利益の維持、向上のため、および一層の開発のためには、たとえ小規模であっても、財政面および技術面から何らの種類の継続的支援が必要であることが示唆されている。

第5章 提言および教訓

5-1 提言

- 1) 正確な推定に関しデータの質を保証するため、3年から5年の間隔で1,300から1,500の有効な「検出力」を以て追加的 KAP 調査を行うことが必要である。
- 2) 若者世代だけでなく社会に対しても知識、態度および行動に確実な影響を生み出すため、現在の活動を継続的に実施すべきである。
- 3) 活動の自立発展性と質を向上させるため、HIV/AIDS 予防知識、NPCS・郡および CBO のネットワーク化を含むプロジェクト管理能力の向上のための技術的訓練を推進すべきである。訓練を実施する場合、参加者の知識変容の評価を行い、訓練方法を改善するため、前後の試験を正しく行うべきである。
- 4) よりよい技術協力および受益的自立発展性のため、HIV 罹患率の減少へ向けた多国間、多セクター間の取り組みを検討すべきである。
- 5) プロジェクトおよびソファアラ州当局は、プロジェクトの利益の自立発展性のため必要な措置について財政的観点から討議し、整理すべきである。また、中央レベルの CNCS は、国全体の IEC 活動改善のため、ソファアラ州におけるこのプロジェクトの成果を利用すべきである。

5-2 教訓

- 1) 複数の組織のカウンターパートとのプロジェクトを考える場合、プロジェクトの詳細な計画調査の前に、彼らの関係だけでなく仕事の実績についても慎重に調査を行うべきである。
- 2) 行動変容を促進するには、よりよい効率性と自立発展性のためコミュニティの関与およびコミュニティを基盤とする組織が必要であると考えられる。
- 3) 行動変容をめざすプロジェクトについて考える時、全体のうち所定の量を様々な社会条件の状況において行動変容を促進するために取られる可能性があるため、客観的に検証可能な指標およびプロジェクト期間については慎重に討議すべきである。

付 属 資 料

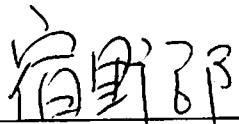
1. ミニッツ（英文）
2. 合同評価報告書
別添資料 1 : Project Design Matrix (PDM)
別添資料 2 : プロジェクト投入要素一覧
3. 評価グリッド（和文）

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
NATIONAL COUNCIL FOR THE FIGHT AGAINST AIDS
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF MOZAMBIQUE
ON
THE TERMINAL EVALUATION
FOR
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PROJECT ON
STRENGTHENING OF INFORMATION, EDUCATION AND COMMUNICATION
ACTIVITIES ON HIV/AIDS
IN SOFALA PROVINCE

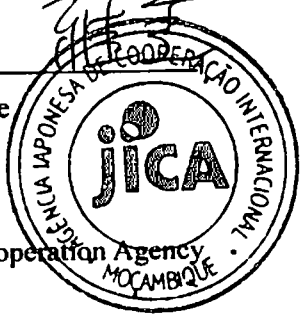
The Japanese Terminal Evaluation Study Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) had a series of discussion and exchanged views with the National Council for the Fight Against AIDS of the Government of the Republic of Mozambique. The purpose of the Team was to confirm the achievements made during the 3 years’ cooperation period, and to make the terminal evaluation for the Project on Strengthening of Information, Education and Communication Activities on HIV/AIDS in Sofala Province (hereinafter referred to as “the Project”).


Both sides jointly monitored the activities and evaluated the achievements of the Project. As a result of the joint evaluation, both sides agreed upon the matters referred to in the Joint Evaluation Report attached hereto.

Maputo, February 15, 2010



Mr. Masami Shukunobe
Chief Representative
Mozambique Office
Japan International Cooperation Agency
Japan





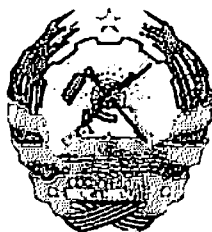
Dra. Joana Magueira
Executive Secretary
National Council for the Fight Against
AIDS
The Republic of Mozambique

APPENDIX

Reference Document:

-The Record of Discussion on the Project signed between JICA and the National Council for the Fight Against AIDS (hereinafter referred to as "CNCS") on April 10, 2007 (hereinafter referred to as "R/D").

(2a)



JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT
FOR
STRENGTHENING OF INFORMATION, EDUCATION AND COMMUNICATION ACTIVITIES
ON HIV/AIDS IN SOFALA PROVINCE

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
NATIONAL COUNCIL FOR THE FIGHT AGAINST AIDS (CNCS)

FEBRUARY 2010



TABLE OF CONTENTS

SUMMARY OF EVALUATION RESULTS.....3

CHAPTER 1 SCOPE OF EVALUATION STUDY5

1.1 BACKGROUND AND OBJECTIVE OF PROJECT EVALUATION5

1.2 EVALUATION AND THE ASSIGNMENT SCHEDULE5

1.3 PROJECT OVERVIEW6

1.4 THE SCOPE OF WORK FOR THE EVALUATION8

CHAPTER 2 EVALUATION METHODS.....9

2.1 EVALUATION CRITERIA9

2.2 METHODOLOGY9

CHAPTER 3 PROJECT PERFORMANCE..... 11

3.1 INPUTS..... 11

3.2 ACHIEVEMENTS OF THE PROJECT..... 11

3.3 IMPLEMENTATION PROCESS 16

CHAPTER 4 EVALUATION RESULTS..... 18

4.1 RELEVANCE 18

4.2 EFFECTIVENESS.....20

4.3 EFFICIENCY23

4.4 IMPACT26

4.5 SUSTAINABILITY28

4.6 CONCLUSION30

CHAPTER 5 RECOMMENDATIONS AND LESSONS LEARNED32

5.1 RECOMMENDATIONS32

5.2 LESSONS LEARNED32



SUMMARY OF EVALUATION RESULTS

Framework of the Project

In the Republic of Mozambique (hereinafter referred to as “Mozambique”), HIV prevalence amongst adult generation ranging from 15 to 49 years old, the number of People Living with HIV and AIDS (hereinafter referred to as “PLWHAs”) and the number of deaths attributable to AIDS were 16%, 1.8 millions and 150 thousands, respectively, reported by USAID/WHO in 2006. The Ministry of Health (hereinafter referred to as “MISAU”) estimated the number of newly infected people at more than 200 thousands per year. Moreover, MISAU reported that approximately 60% of those newly infected account for younger generation ranging from 15 to 24 years old, and approximately 15% of those newly infected account for later childhood below 15 years old which implies a lowering trend in the age of newly infection. It is confirmed the existence of a geographical variance of the HIV prevalence, estimated as follows; 7% in northern region, 17% in central region and 14% in southern region. Especially for Sofala province, where is the metropolis in central region with major arterial road of “*Beira Corridor*”, it is estimated to have high HIV prevalence of 24%. Formerly, onset as well as velocity of HIV prevalence was rather moderate in comparison with other southern African countries in Mozambique. However, the migratory movement after the conclusion of peace agreement in 1992 accelerated the speed of HIV dissemination. Chief infection routes of HIV are identified as heterosexual transmission, followed by mother-to-child transmission.

Under these circumstances, the National Council for Fight against AIDS (hereinafter referred to as “CNCS”) prioritized the popularization of accurate knowledge about HIV/AIDS for its dissemination of information on HIV/AIDS prevention. Consequently, CNCS requested JICA to launch a new project in Sofala province with high prevalence of HIV/AIDS entitled “*STRENGTHENING OF INFORMATION, EDUCATION AND COMMUNICATION ACTIVITIES ON HIV/AIDS IN SOFALA PROVINCE*” (hereinafter referred to as “the Project”) for a younger generation ranging from 15 to 30 years old as a target group at a high risk of newly infection of HIV. The purpose of the Project is to accelerate Information, Education and Communication (hereinafter referred to as “IEC”) related activities for effective behavioral modification, by utilizing existing equipment and materials provided by JICA formerly. The Project has been implemented from April 2007 for 3-year project period until April 2010, with the National Aids Nucleus (hereinafter referred to as “NPCS”) under CNCS as counterparts, and the Institute of Social Communication (hereinafter referred to as “ICS”) as the implementing body, instead of dispatching Japanese experts. However, the actual project activities were implemented by utilizing the Christian Council of Mozambique (hereinafter referred to as “CCM”), a local NGO in Mozambique, and local consultants for the implementation of Knowledge, Attitude and Practice (hereinafter referred to as “KAP”) survey.



Summary of Evaluation Results by Five Criteria

The importance of policy response to combat HIV/AIDS is maintained as one of priority policies regarding Mozambican healthcare at the time of Terminal Evaluation. Moreover, the active efforts to HIV/AIDS including IEC activities are supposed to be highly prioritized in the next strategic plan that is about to be launched by CNCS and MISAU. Moreover, consistency with Japan’s and JICA’s aid policies as well as needs of society is confirmed. Therefore, it is considered that the relevance of the Project is highly maintained at the time of the Terminal Evaluation.

On the other hand, the achievement of the objectively verifiable indicators for the Project Purpose from the aspect of accomplishments of the indicators on the basis of the evaluation principals strictly, it is considered that the achievement of the Project is rather limited due to insufficient improvements of knowledge, attitudes and practice amongst younger generation at the time of the Terminal Evaluation. Delays of the project activities have substantially inhibited the implementation of the project activities. Mal-achievement and insufficient results of the 2nd KAP study might be attributed to the delay. However, the Project succeeded to improve several indicators such as substantial increase of awareness toward HIV test and educated sexual intercourse. Therefore, it is considered that the effectiveness of the Project is considered to be moderate on average at the time of the Terminal Evaluation.

Activities on each process have been conducted in line with the Plan of Operation, while the planned activities of the Project, by and large, were substantially delayed for almost one year for the finalization of PDM and the 1st KAP study as a preparation of the project ground. Thus, the actual period of time for the implementation of the project activities was substantially shortened for two years, which was considered too short to promote satisfactory behavioral modifications amongst the target group. However, NPCS and CCM established community-based networks with five CBOs and other related actors, and the network will contribute to the improvement of HIV prevalence in Sofala province in the future. Therefore, The efficiency of the Project is lower moderate at the time of the Terminal Evaluation, since substantial delays of the project activities vitiated the efficiency of the Project.

Slight reduction of HIV prevalence was already observed, while it is difficult to measure direct influence of the Project to the reduction due to the existence of external factors. Sofala province has a lot of transients and immigrants from other provinces and other countries, who can be one of the major HIV transmitters. Other important assumptions such as ART, referral system and quality assurance of laboratories, HIV test service provision, nutrition, etc. should be taken into consideration not only for reduction of HIV prevalence but for comprehensive improvement of HIV/AIDS situation. Therefore, it is considered that multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence should be taken into consideration in order to promote a certain impact on the reduction of HIV prevalence.

From political and institutional aspects, sustainability of the project in terms of the importance of HIV/AIDS control will be highly maintained. However, financial and technical assistance will be required, even if it were small-scale, to maintain the benefits derived from the implementation of the Project and to promote further improvement of their capacity for quality data management, while they have acquired certain level of capacity for the implementation of IEC activities as a routine work. Therefore, it is considered that a self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits provided by the Project can be expected in some degree if continuous small-sized assistances are obtained by any means.

Conclusion

In conclusion, it is suggested that some sort of continuous assistance from financial and technical aspects, even if it were small-scale, would be necessary for the maintenance and/or the improvement of benefits derived from the Project, and for further development.



CHAPTER 1 SCOPE OF EVALUATION STUDY

1.1 Background and Objective of Project Evaluation

It is important to carry out an evaluation of the outcomes, and to feedback the evaluation results, lessons and recommendations for a more effective and efficient implementation of development assistance. The harsh economic and fiscal situations in Japan in recent years have generated strong domestic calls for more effective and efficient implementation and increased accountability for Japan's ODA.

The enhancement of evaluation has drawn attention as one of the major improvement measures to be undertaken by the Japanese Government. In addition, there have been changes in the political landscape such as the adoption of public sector evaluation by Japanese Government Ministries and the reorganization of agencies such as JICA into Independent Administrative Institutions (IAI) that required improvements in the evaluation system.

JICA's evaluation is a tool for judging as objective as possible the relevance and effectiveness of its technical cooperation activities at the four different stages during the project cycle: ex-ante, mid-term, final, and ex-post. The primary objective of those evaluations is to improve the effectiveness and efficiency of projects by using evaluation results for better planning and implementation. JICA also intends to gain public support and understanding by using evaluation to promote accountability.

Final evaluation is performed towards the completion of a Project, with a focus on its relevance, effectiveness, and efficiency. However, other criteria such as impact and sustainability are also evaluated to confirm the appropriateness of the Project and the effects it has generated (or is likely to generate). Based upon the results of the evaluation, JICA determines whether it is appropriate to complete the Project or to extend follow-up cooperation.

The Project, which started on April 10th, 2007, is implemented for 3-year period until February 28th, 2010, in accordance with the R/D signed on April 10th, 2007, and the M/M signed on March 31st, 2005. Now, remaining period of the Project is approximately two months, JICA and the Ministry have conducted jointly a Terminal evaluation on the Project.

1.2 Evaluation and the Assignment Schedule

The JICA Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") was constituted by JICA and was joined by counterparts from CNCS. The evaluation team constituted of the following members.

<Mozambican Side>

1. Dr. Diogo Milagre, Deputy Executive Secretary, CNCS
2. Dr. Maria SEMEDO, Coordinator, NPCS
3. Ms. Katia MANJATE, Communication Assistant at CNCS central Level
4. Mr. Nelson JOAQUIM, Communication Assistant at NPCS Sofala

<Japanese Side>

1. Mr. Masami SHUKUNOBE, Chief Representative, JICA Mozambique Office



2. Mr. Kenta ONO, Assistant Resident Representative, JICA Mozambique Office
3. Dr. Yoichi INOUE, Senior Consultant, Japan Development Service, Co., Ltd.
4. Mr. Simoes VICTORINO, Consultant (Health Sector), JICA Mozambique Office

The evaluation was conducted between 25th January 2010 and 4th February 2010. The duration was used for site visits, interviews and scrutinizing various documents and data related to planning, implementation and monitoring processes of the Project.

1.3 Project Overview

< Background >

In the Republic of Mozambique (hereinafter referred to as “Mozambique”), HIV prevalence amongst adult generation ranging from 15 to 49 years old, the number of People Living with HIV and AIDS (hereinafter referred to as “PLWHAs”) and the number of deaths attributable to AIDS were 16%, 1.8 millions and 150 thousands, respectively, reported by USAID/WHO in 2006. The Ministry of Health (hereinafter referred to as “MISAU”) estimated the number of newly infected people at more than 200 thousands per year. Moreover, MISAU reported that approximately 60% of those newly infected account for younger generation ranging from 15 to 24 years old, and approximately 15% of those newly infected account for later childhood below 15 years old which implies lowering trend in the age of newly infection. It is confirmed that the existence of geographical variety of the HIV prevalence, estimated as follows; 7% in northern regions, 17% in central regions, and 14% in southern regions. Especially for Sofala province, where is the metropolis in central region with major arterial road of “*Beira Corridor*”, it is estimated to have high HIV prevalence of 24%. Formerly, onset as well as velocity of HIV prevalence was rather moderate in comparison with other southern African countries in Mozambique. However, the migratory movement after the conclusion of peace agreement in 1992 accelerated the speed of HIV dissemination. Chief infection routes of HIV are identified as heterosexual transmission, followed by mother-to-child transmission.

Under these circumstances, the National Council for Fight against AIDS (hereinafter referred to as “CNCS”) prioritized the popularization of accurate knowledge about HIV/AIDS for its dissemination of information on HIV/AIDS prevention. Consequently, CNCS requested JICA to launch a new project in Sofala province with high prevalence of HIV/AIDS entitled “*STRENGTHENING OF INFORMATION, EDUCATION AND COMMUNICATION ACTIVITIES ON HIV/AIDS IN SOFALA PROVINCE*” (hereinafter referred to as “the Project”) for a younger generation ranging from 15 to 30 years old as a target group at a high risk of newly infection of HIV. The purpose of the Project is to accelerate Information, Education and Communication (hereinafter referred to as “IEC”) related activities for effective behavioral modification, by utilizing existing equipment and materials provided by JICA formerly. The Project has been implemented from April 2007 for 3-year project period until April 2010, with the National Aids Nucleus (hereinafter referred to as “NPCS”) under CNCS as counterparts, and the Institute of Social Communication (hereinafter referred to as “ICS”) as the implementing body, instead of dispatching Japanese experts. However, the actual project activities were implemented by utilizing the Christian Council of Mozambique (hereinafter referred to as “CCM”), a local NGO in Mozambique, and local consultants for the implementation of Knowledge, Attitude and Practice (hereinafter referred to as “KAP”) survey, instead of ICS. The reason for the change will be explained in the “4.3 Efficiency” section.

The framework of the project is described below.

Narrative Summary of the Current PDM (Version 2, Revised Date of December 7, 2007)

Overall Goal & Indicators	<p><u>Overall Goal</u> HIV prevalence in Sofala Province is reduced.</p> <p><u>Objectively Verifiable Indicators for Overall Goal</u> By 2013, a reduction of 5% of the HIV/AIDS prevalence in Sofala Province.</p>
Project Purpose & Indicators	<p><u>Project Purpose</u> The behaviors of youth toward; increased condom use, reduced number of sexual partners, and delayed sexual debut, are changed, and also discriminatory attitudes toward PLWHA are thawed in Sofala Province.</p> <p><u>Objectively Verifiable Indicators for Project Purpose</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. By 2010, condom use in last occasional sexual relation among the use in Sofala Province is increased by 10% in comparison with that of the beginning of the Project. 2. By 2010, the average number of sexual partners is reduced in comparison with that of the beginning of the Project. 3. By 2010, the average/median age of sexual debut is elevated in comparison with the beginning of the Project. 4. By 2010, 10% of youth thawed discriminatory attitudes toward PLWHA.
Outputs & Indicators	<p><u>Output 1</u> Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education.</p> <p><u>Objectively Verifiable Indicators for Output 1</u> By 2010, higher level of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issue among the youth will be confirmed in comparison with that of the beginning of the Project.</p> <p><u>Output 2</u> Programme implementing capacity of CNCS (and ICS) is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.</p> <p><u>Objectively Verifiable Indicators for Output 2</u> By 2010, ICS will organize regular activities jointly with at least 3-partner organization in Sofala Province.</p>
Activities	<p><u>Activity 1 under Output 1</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. To conduct KAP survey targeting the youth and analyze the result at the beginning and the end of the project. 1-2. To conduct a survey targeting adult target groups (parents, community leaders, régulos, religious leaders, traditional healers, teachers and government authorities, etc) on youngsters' sexual activities. 1-3. To undertake workshops with the adult target groups to raise their awareness towards the need of their involvement into HIV/AIDS reduction

	<p>in families and communities based on the result of Activity 1-2.</p> <p>1-4. To evaluate existing IEC materials and identify the need for new materials to be produced in accordance with the spirit of the Communication Strategy.</p> <p>1-5. To produce IEC materials for the youth and adults target groups based on the result of Activity 1-1. - 1-4.</p> <p>1-6. To disseminate IEC materials among the youth and adult target groups together with informing the other available services such as VCT service and condom distribution.</p> <p>1-7. To conduct participatory debates involving the youth, the adult target groups and PLWHA groups so as to obtain their consensus on the content and messages, which should be disseminated.</p> <p><u>Activity 2 under Output 2</u></p> <p>2-1. To identify entities that operates in the area of HIV/AIDS education for youth (specialists in reproductive health, health personnel, including local initiatives in the area of theatre and music) in Sofala Province.</p> <p>2-2. To identify facilities in the area of HIV/AIDS education for the youth (VCT centres etc.) and available services (condom dissemination etc.) in Sofala Province.</p> <p>2-3. To conduct workshops involving other entities working on HIV/AIDS issues so as to create a participatory work plan for the dissemination of the IEC materials.</p> <p>2-4. To conduct basic and continuous training on HIV/AIDS education and sexual health, including monitoring and evaluation, for ICS and other entities.</p> <p>2-5. To monitor the IEC activities implemented by ICS and other entities.</p>
--	---

1.4 The Scope of Work for the Evaluation

The broad scope of works, undertaken by the evaluation team, involved the following activities;

- 1) Desk-review of various documents related to the Project
- 2) Preparation of questionnaires to various respondent groups
- 3) Administration questionnaires and collection of responses from the respondents
- 4) Interviews and focus group discussions with key informants
- 5) Project site visits to observe situation on the ground.
- 6) Compilation and analysis of the data and information collected from the various sources
- 7) Value judgment (interpretation) of the data along the five criteria of Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability.
- 8) Identification of the factors that promoted and those that inhibited the effects of the project and drawing the necessary conclusions and recommendations.
- 9) Reporting

CHAPTER 2 EVALUATION METHODS

2.1 Evaluation Criteria

Indicators, Evaluation Questions and Necessary Data

The evaluation team studied the original and revised versions of the PDM. Using the indicators in the PDM1, an Evaluation Grid was prepared elaborating the evaluation points and outlining key evaluation questions alongside the five criteria: relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability. The grid also identified the type of data to be collected, the source and method(s) of data collection.

<Relevance>

An overall assessment of whether the project purpose and overall goal are in keeping with donor and recipient policy and with local needs and priorities.

<Effectiveness>

A measure of whether the project purpose has been achieved. This is then a question of the degree to which the outputs contribute towards achieving the intended project purpose.

<Efficiency>

A measure of the production of outputs (results) of the Project in relation to the total resource inputs. In other words, how economically the various inputs were converted into outputs.

<Impact>

The positive and negative changes produced directly and indirectly as the result of the Project, which is foreseen and unforeseen consequences for society.

<Sustainability>

An overall assessment of the extent to which the positive changes achieved by the Project can be expected to last after the completion of the Project.

2.2 Methodology

Data Collection Methods

Following on the data collection methods identified in the evaluation grid, the evaluation team collected data and information through document review, questionnaires and interviews and discussions with various respondent groups that were identified as stakeholders in the Project. The interviews and focus group discussions with key informants were conducted on site to collect information in line with the evaluation questions.

Data Analysis

The data collected represented both quantitative and qualitative aspects of the Project. For quantitative data, statistical analytical methods were employed to generate frequencies, % of distribution to assess the degree of achievements against targets and casual relationships between



variables. On the other hand, the qualitative information, obtained from document review, interviews and/or focus group discussions were assessed to determine the meaning of the responses and to identify new facts, emerging issues and/or relationships between factors that may be deductively constructed.



CHAPTER 3 PROJECT PERFORMANCE

3.1 Inputs

Input from Japanese Side

The following are inputs from Japanese side to the Project as of February 2010. See details on the Annex 2.

Components	Inputs
Dispatch of Long Term Japanese Experts	Not dispatched
Provision of Equipment	11,555,000 JPY
Provision of local activity cost (including consultants' fee and management fee to NGO)	31,345,000 JPY
Sum Total	42,900,000 JPY*

*<Reference> This total amount is approximately 480,672 USD with JICA's exchange rate as of March 2010 (1 USD= 89.25 JPY).

Input from Mozambique Side

The followings are inputs from Mozambican side to the Project as of February 2010. See details on the Annex 2.

- Allocation of Counterparts
- Provision of land and facilities including office for the Project
- Appropriation of operational cost
- Preparation of Training and Seminar

3.2 Achievements of the Project

3.2.1 Achievements of the Project Activities

Achievements of the Project Activities under Outputs are as indicated below.

Output 1	
Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education.	
Activities	Achievements
1-1. To conduct KAP survey targeting the youth and analyze the result at the beginning and the end of the project.	1st KAP survey as the baseline survey was conducted from October 2007 in three districts of Sofala province (Beira city, Caia district and Marromeu district). Those districts were chosen taking into consideration the balance of urban and suburban area and prevalence rate of HIV/AIDS. Then 2nd KAP survey as the impact survey was conducted in November 2009 in the same districts.

<p>1-2. To conduct a survey targeting adult target groups (parents, community leaders, religious leaders, traditional healers, teachers and government authorities etc.) on youngsters' sexual activities.</p>	<p>KAP survey was also conducted to adult target groups and identified leaders such as traditional leaders, healers, religious leaders, and focal points of government authorities in each district in order to investigate their perception on youngest sexual activities.</p>
<p>1-3. To undertake workshops with the adult target groups to raise their awareness towards the need of their involvement into HIV/AIDS reduction in families and communities based on the result of Activity 1-2.</p>	<p>Based on the result of activity 1-2, the following activities were conducted. .</p> <ul style="list-style-type: none"> - Two (2) workshops in Nhamatanda district and Caia district (Northern and Southern of the province) to raise awareness of 78 adult leaders (healers, nurses, religious leaders); - Two (2) workshops to raise awareness of 35 community post chiefs in Gorongosa district and Buzi district; - One (1) workshop in Beira city to raise awareness of 13 heads of all districts in Sofala Province.
<p>1-4. To evaluate existing IEC materials and identify the need for new materials to be produced in accordance with the spirit of the Communication Strategy.</p>	<p>The evaluation of IEC materials was conducted in March 2008, by local consultant firm (KULA consultores, Lda) and the recommendation was to translate the existing IEC materials (films) into local languages (Sena and Ndau) without newly production of IEC materials.</p>
<p>1-5. To produce IEC materials for the youth and adults target groups based on the result of Activity 1-1. - 1-4.</p>	<p>Following the result of evaluation done by activity 1-4, the local consultant firm (Austral Cowi) translated two (2) kinds of films in Portuguese into local language (SENA and NDAU) in accordance with guidance of Provincial authorities on AIDS (NPCS) By November 2008. The names of the films are Eclipse and Vidas Partilhadas. The films have come into use from December 2008.</p>
<p>1-6. To disseminate IEC materials among the youth and adult target groups together with informing the other available services such as VCT service and condom distribution.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Using the equipments provided for the IEC activities, the project has implemented 86 mobile unit sessions using translated films by the project and other films from May 2009. The sessions transmitted the message of films translated by the project and other films to 36,710 people in 13 districts. - From April 2009, the project distributed 360 posters with messages of HIV/AIDS prevention in Portuguese, which were developed by the Project. - One (1) workshop was conducted in February 2009, for 11 coordinators of AIDS at district level to strengthen management and maintenance of IEC equipments.

<p>1-7. To conduct participatory debates involving the youth, the adult target groups and PLWHA groups so as to obtain their consensus on the content and messages, which should be disseminated.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - In the workshops held in Beira city for 13 district heads and at district level for adult leaders, it was discussed how to transmit the appropriate message to the local people. The activity was conducted in January 2009. - In the presentation by KULA consultores, Lda to report evaluation of existing IEC material, it was discussed what messages should be clarified and disseminated by films. This activity was held in March 2008. - Fourteen (14) participatory radio discussion programmes were conducted using community radio in local language involving different target groups, from January 2009 to January 2010. - In March 2009, one (1) workshop involving 20 journalistic channels (radio, TV and newspaper) was held to strengthen dissemination of messages by multimedia.
---	---

<p>Output 2 Programme implementing capacity of CNCS and ICS is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.</p>	
Activities	Achievements
<p>2-1. To identify entities that operates in the area of HIV/AIDS education for youth (specialists in reproductive health, health personnel, including local initiatives in the area of theatre and music) in Sofala Province.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Through participatory discussion and survey, one theatre group called Haya Haya theatre group was identified, and it was utilized to disseminate risks of HIV/AIDS and prevention method etc. through theatre sessions in the communities. This group has made 17 sessions and covered 6,642 peoples in total of different target groups. - Through participatory discussion and survey, five (5) CBOs (Community Based Organizations) such as Geração BIZ, SAAJ (Health), Associação de Luta pela Vida, Associação de líderes Comunitários (ALCAP) and AJCI, were identified and utilized in the project. They have implemented mobile units in all 13 districts and supported the health entities on provision of condoms (approximately 300,000 condoms were distributed to the district governments and community through theatre sessions)
<p>2-2. To identify facilities in the area of HIV/AIDS education for the youth (VCT centres etc.) and available services (condom dissemination etc.) in Sofala Province.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Mentioned as in above, five (5) CBOs and their resources of infrastructure were identified and utilized in the project. - In the project, facilities of district governments and health units were identified and utilized. For IEC activities, necessary equipments for the activities were provided to 13 districts by the project, and the project trained districts to strengthen management and maintenance of IEC equipments.

2-3. To conduct workshops involving the other entities working on HIV/AIDS issues so as to create a participatory work plan for the dissemination of the IEC materials.	One (1) workshop was conducted in Beira city to discuss the IEC dissemination plan drafted by local consultant firm (Austral Cowi) entrusted by the project with participation of related organizations such as governmental organizations, local and international NGOs working in HIV/AIDS to have their opinion.
2-4. To conduct basic and continuous training on HIV/AIDS education and sexual health, including monitoring and evaluation, for ICS and the other entities.	<p>- Two (2) workshops was held by July 2009 in Nhamatanda district and Caia district (Northern and Southern of the province) to raise awareness of 78 adult leaders (healers, nurses, religious leaders);</p> <p>- Two (2) workshops was held by November 2009 to raise awareness of 35 community post chiefs in Gorongosa district and Buzi district;</p> <p>- One (1) workshop was held in January 2009 in Beira city to strengthen leadership of 13 heads of all districts in Sofala Province on HIV/AIDS education including monitoring and evaluation of the activities.</p> <p>No data is available for measurement of the effectiveness of the workshops since pre- and post-test and/or pursuant acts were not conducted.</p>

3.2.2 Achievements of the Outputs

1) Output 1

Output 1 was partially achieved. KAP study found some improvements on knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issue among the youth 2 years after the beginning of the project activities. Prevalence rate of HIV/AIDS of Sofala province was reduced during the project period, but the project could not conduct the KAP study with appropriate quantity of data to clarify the improvements on knowledge, attitude and practice.

Achievements of the Output 1 are as indicated below.

<p>[Output 1] Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education.</p>	
<p>Objectively Verifiable Indicators</p>	<p>Achievements</p>
<p>By 2010, higher level of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issue among the</p>	<p>The following improvement n 2 years from 2007 to 2009 was confirmed by KAP study: > Increase of the youth intention to make test with 63.4% from 30% in 2007 to 93.4 % in 2009;</p>

youth will be confirmed in comparison with that of the beginning of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Little increase of usage of condoms with 0.8% from 35% in 2007 to 35.8% in 2009; ➤ Little reduction of people with multi sexual partners with 2.3% from 33 % in 2007 to 30.7% in 2009; ➤ Two years elevation of age for the first sexual intercourse from 15 years old in 2007 to 17 years old in 2009.
--	---

2) Output 2

Output 2 was almost achieved. The project implementation approach was changed, and ICS was excluded from the implementation structure. After the change of approach, more effective and sustainable implementing organization was established with initiative of NPCS and local NGO. It promoted improvement of implementing capacity on IEC activities and partnership with other related entities.

Achievements of the Output 2 are as indicated below.

【Output 2】 Programme implementing capacity of CNCS and ICS is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.	
Objectively Verifiable Indicators	Achievements
By 2010, ICS will organize regular activities jointly with at least 3 partner organizations in Sofala Province.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The project was managed and supervised by the NPCS. At the beginning of the project, the IEC activities were conducted by ICS. However, since the performance of ICS was not satisfying and inefficient, project implementation approach was changed with a contract on IEC activities management with local NGO (Christian Council of Mozambique (CCM)). ➤ NPCS and CCM established a network with five CBOs and other related actors such as Haya Haya theatre group, and build the capacity of district level responsible for HIV/AIDS to implement IEC activities as regular activities.

3.2.3 Achievements of the Project Purpose

Despite the Project was supposed to make strong efforts to increase the condom usage rate as well as the reduction of the number of sexual partners, the achievement of the Project Purpose would be limited to some extent because of the delay of expected activities.

However, it is expected the Project Purpose is partially achieved by the end of the Project, taking into account that positive changes have been found on the reduction number of sexual partners, sexual debut age and discriminatory attitudes toward PLWHA. A marginal increase of condom use

can be regarded as the onset of improvement.

Achievements of the Project Purpose are as indicated below.

【Project Purpose】	
The behaviors of youth toward increased condom use, reduced number of sexual partners, and delayed sexual debut, are changed, and also discriminatory attitudes toward PLWHA are thawed in Sofala Province.	
Objectively Verifiable Indicators	Achievements
1. By 2010, condom use in last occasional sexual relation among the use in Sofala Province is increased by 10% in comparison with that of the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, the percentage of condom use was 35%, and that of 2009 became 35.8%. There was small increase of usage of condoms in 2 years.
2. By 2010, the average number of sexual partners is reduced in comparison with that of the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, the percentage of people with multi sexual partners was 33% and that of 2009 became 30.7%. There has been a reduction of 2.3 % in two years.
3. By 2010, the average/median age of sexual debut is elevated in comparison with the beginning of the Project.	In the 2007 KAP study, average of the first sexual intercourse was 15 years old, and that of 2009 was 17 years old. It was elevated with 2 years in 2 years.
4. By 2010, 10% of youth thawed discriminatory attitudes toward PLWHA.	The youth discrimination attitude by 2010 could be archived, taking into consideration that the average rate is 9.3% reduction from 97.5% at the beginning of the project to 88.2% in 2009.

3.3 Implementation Process

3.3.1 Progress of Activities

Activities on each process have been conducted in line with the Plan of Operation, while the planned activities of the Project, by and large, were substantially delayed for almost one year. The details are discussed in “4.3 Efficiency” section.

3.3.2 Project Management

There were substantial problems with the communication and/or cooperative relationship among the relevant organizations during the initial phase of the project period. The details are discussed in “4.3 Efficiency” section.

3.3.2 Ownership and Autonomy

Ownership and autonomy of the Project amongst CNCS, NPCS and CCM were inevitably nurtured attributed to the absence of Japanese experts. And the implementation of the project activities were recognized their own responsibility. Likewise, other entities involved in the Project, such as CBOs, community leaders, were very cooperative.



CHAPTER 4 EVALUATION RESULTS

4.1 Relevance

The relevance of the Project is highly maintained at the time of the Terminal Evaluation for the following reasons.

- 1) Consistency of the Project Purpose with the Mozambican HIV/AIDS-related Health Policies and the needs of target group

HIVAIDS is recognized as one of the most important global issues, which might significantly undermine human security. Indeed, HIV/AIDS represents a serious, sometimes lethal threat to sub-Saharan African countries including Mozambique. In fact, HIV positives accounted for approximately 64% of world HIV population in that area, though the residents accounted for only 11% of world population. In Mozambique, HIV prevalence was estimated approximately 16.2% as a national average at the time of commencement of the Project in 2007. Though the HIV prevalence in Mozambique is rather moderate comparing to neighboring countries of Zambia (19.1%), Swaziland (18.5%) and Malawi (14.9%). In response to the crisis, CNCS launched a crosscutting and comprehensive plan to fight against HIV/AIDS under the National Strategy for HIV/AIDS 2005-2009. The plan consists of seven priority areas of “Prevention”, “Advocacy”, “Stigma and Discrimination”, “Treatment”, “Mitigation”, “Investigation” and “Coordination”, including IEC targeting younger generation as a high-risk group.

Sofala province, the target area of the project activities, is one of the highest HIV-prevalent provinces in Mozambique of 23% in 2007, 7% higher than national average (Table 1). Moreover, Sofala province, the metropolis in central region with major arterial road of “Beira Corridor”, is considered to be highly vulnerable to HIV epidemic.

As of the time of the Terminal Evaluation survey, the next strategic plan to combat HIV/AIDS is still under preparation, the Team orally confirmed to CNCS that the importance of HIV/AIDS control wouldn't be impaired in the least. It is, therefore, considered that the Project, aiming to strengthen IEC in Sofala province targeting young vulnerable generation with the involvement of communities, is of considerable relevance from political, geographical and strategic perspectives.

Table 1: Regional Trend of HIV Prevalence in Mozambique

Region	HIV Prevalence		
	2004	2007	2009
Mozambique	16	16	15
Southern	19	21	21
Maputo	22	26	NA
Maputo City	21	23	NA
Gaza	25	27	NA
Inhambane	10	12	NA
Central	19	18	18
Sofara	24	23	NA
Tete	14	13	NA
Zambezia	18	19	NA
Manica	16	16	NA
Northern	9	9	9
Cabo Delgado	9	10	NA
Nampula	9	8	NA
Niassa	8	8	NA

Reference: Revised Report of Epidemiological Data on HIV, Round 2007, National Programme of STI/HIV/AIDS Control, National Directorate of Medical Assistancess, Ministry of Health, Republic of Mozambique: February 2008.
NA: Data Not Available

2) Consistency of the Project Purpose with Japan's Aid Policy and JICA's Country-by-Country Assistance Implementation Policy

In Japan's aid policy, the healthcare cooperation area, including infection control and capacity development, is regarded as one of the priority areas in the Yokohama Action Plan (YAP) adopted at the 4th Tokyo International Conference on African Development (TICAD 4) in 2008. Similarly, JICA, the main body responsible for the implementation of Japan's Official Development Assistance (ODA), has emphasized capacity development for ensuring sustainability, has provided mainly to central and regional governments, but also the community level. At the community level, JICA has promoted HIV/AIDS prevention and awareness, through assistance to local NGOs and introduction of voluntary counseling and testing (VCT).

Furthermore, shortage and inadequate education of health personnel in Mozambique are emphasized as urgent issues in the JICA's country-by-country assistance implementation policy issued in August 2009, and the project is regarded as the "Programme on the Improvement of Basic Healthcare" under the "Human Resources Development".

Therefore, the Project, aiming to strengthen IEC at community level with involvement of CBOs through assistance to the local NGO of CCM, is highly consistent with Japan's Aid Policy and JICA's Country-by-Country Assistance Implementation Policy.

3) Appropriateness of Assistance Procedure

There is no logical error to conduct the project activities for the improvement of the levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth through reinforcement of HIV/AIDS education (Output 1), with the reinforcement of NPC's programme implementation capacity and involvement of communities as well as CBOs (Output 2), to achieve the Project Purpose aiming for the reinforcement of IEC.

First KAP study in relation to HIV/AIDS, implemented in Beira, Caia and Marromeu communities as sampling locations from October 2007, were effectively used to analyze current situation as a baseline survey at the commencement of the project activities, and the 2nd KAP study was implemented November 2009 to measure positive and/or negative impact of the Project activities on knowledge, attitude and practice in relation to HIV/AIDS. Both studies were conducted efficiently and analyzed accurately, while the numbers of samples investigated were too small "power" (as a statistical terminology) of 160 in 2007 and 212 in 2009, due to the financial limitation, to extrapolate a real world in Sofala province. Specifically, it is statistically required to investigate from 1,300 to 1,500 samples in case that the target population exceeds 10,000.

All the activities such as seminars and trainings were conducted for both women and men, taking gender balance into account. Also, the Project activities respected and made use of Mozambican social system such as involvement of traditional and religious leaders, production of IEC materials in local languages and so on.



4.2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is considered to be moderate on average at the time of the Terminal Evaluation for the following reasons.

1) Achievement of Project Purpose

The Project intended to promote behavioral modification of younger generation, as the Project Purpose, to prevent the expansion of the number of newly HIV-infected people with the involvement of communities as well as CBOs. The “*Objectively Verifiable Indicators*” for the measurement of the achievement of the Project Purpose are 1) 10% increase of condom use in last occasional sexual intercourse, 2) reduction of the number of sexual partners, 3) elevation of the age of sexual debut, and 4) thaw of the youth’s discriminatory attitudes toward PLWHAs.

In case that the Team evaluates the achievement of the Project from the aspect of accomplishments of the indicators on the basis of the evaluation principals strictly, it is considered that the achievement of the Project is rather limited at the time of the Terminal Evaluation. There remains insufficient knowledge, attitudes and practice (Table 2). Percentage of those who believe that circumvent prevents HIV transmission is as high as 50.5 %, though this issue wasn’t included in the contents of IEC. Moreover, % of those who acknowledge condom prevents HIV transmission was adversely changed from 91.3% in 2007 to 90.6% in 2009. Furthermore, there remains critical misunderstanding that someone especially in remote rural settings believes that HIV is transmitted “*by condoms*”, which view was obtained in the field survey of this Terminal Evaluation. As for the attitude, there is a discrepancy that % of those who can socialize with seropositive friends was certainly improved, while % of those who can live with seropositive family members was reduced by 9.3%.

On the other hand, the Project succeeded to improve several indicators reported in 2nd KAP study. It is particularly worth noting that % of those who gave an indication of their will to receive HIV test demonstrated a considerable increase of 30.0% in 2007 to 93.4% in 2009 through the implementation

Table 2: Results of KAP studies in 2007 and 2009

Component	Indicators	Results	
		2007	2009
Knowledge	% of those who previously heard about HIV/AIDS	-	97.6 %
	% of those who prefer radio as a access method for HIV-related information	66.9 %	64.6 %
	% those who know the principal forms of HIV transmission:		
	Blood	-	89.2 %
	Semen	-	92.9 %
	% of those who believe Pitakupha transmits HIV	-	85.8 %
	% of those who believe HIV is transmitted by cutting-perforating objects	96.0 %	94.3 %
	% of those who believe circumcision prevents HIV	-	50.5 %
	% of those who think pregnant women could transmit HIV to their babies	86.9 %	89.6 %
	% of those who acknowledge condom prevents HIV transmission	91.3 %	90.6 %

	% of those who know someone with HIV	-	38.7 %
	Attitude	% of those who know someone with AIDS	-
% of those who know how to differentiate HIV/AIDS		-	68.4 %
% of those who know AIDS has no cure		-	86.8 %
% of those who would reveal their serologic status		-	79.2 %
% of those who could live with seropositive family members		97.5 %	88.2 %
% of those who could socialize of seropositive friends		83.1 %	97.6 %
Practice		% of those who gave an indication of willing to receive HIV tests	30.0 %
	% of those who have educated sex	72.0 %	92.0 %
	Age of sexual debut	15 years old	17 years old
	% of those who have more than one sexual partner	33.0 %	30.7 %
	% of those who always use a condom during the sexual intercourse	35.0 %	35.8 %

Reference: MD Consultores, Lda. Final report of KAP Study, November 2009. (English and Indicators were partially modified by the Terminal Evaluation Team)

of the Project. In addition, % of those who have answered that they are doing “educated ” sexual intercourse, while % of those who always use a condom during the sexual intercourse demonstrated a small increase of 35.0% in 2007 to 35.8% in 2009 by 0.8%, which would be considered that there was no statistical difference. The reason for this discrepancy will be explained that the word “education” was not defined clearly, and contains various meaning according to the interviewees such as not only condom usage but also faithfulness and improved attitudes to their partners, the knowledge of HIV prevention, transmission, and so on. The reason for mal-impact onto the condom usage will also be explained that approximately 300,000 condoms were distributed to the district governments and community through theatre sessions from September 2009. Thus, it is considered that it is difficult to generate certain effect of the condom distribution onto the behavioral modification at the time of the 2nd KAP study only a few months after the distribution in November 2009. Alternative supportive information, which was obtained through the field survey, that the quality of condoms provided by other donating organization through the Project were quite low, which prevented youngsters from using condoms.

As aforementioned in the “*Relevance*” section, the numbers of samples investigated was too small “*power*” (as a statistical terminology) of 160 in 2007 and 212 in 2009, due to the financial limitation, to extrapolate a real world in Sofala province. Specifically, it is statistically required to investigate from 1,300 to 1,500 samples in case that the target population exceeds 10,000. And, a specialist should have inspected the question items whether those items were appropriately set for the accurate measurement of knowledge, attitude and practice, since some question items do not have clear intension. Furthermore, the Project should have taken measures and/or made an arrangement to conduct a statistical analysis in the 2nd KAP so that we can understand the difference of the results between in 2007 and in 2009 is considered as results from the implementation of the Project, with a statistical evidences.

2) Important assumptions

- ① *“Sexual education is considered as a long-term process with an extensive context related to sexual health, which becomes more specific as the youth grow older.”*

There was no deterioration of this assumption during the project period, and no influence was observed. CNCS as well as NPCS should take necessary measures to distribute those educational views in order to maintain this assumption after the cessation of the Project.

- ② Other possible assumptions

High turnover rate is sometimes recognized as an important assumption in the technical cooperation implemented in Mozambique. However, there were few transfers, resignations and retirements during the project period, and there were no influence of the turnovers on the implementation of the project activities as of the time of the Terminal Evaluation.

3n

3) Contributing Factors for Effectiveness

Reconstruction of the Project implementation system has effectively contributed to accelerate the project activities. After the reconstruction, communication amongst JICA, NPCS and CCM has been

improved in terms of the monitoring system for the progress of the Project. The details are given in “4.3 *Efficiency*” section.

4) Inhibitory Factors against Effectiveness

Delays of the project activities have substantially inhibited the implementation of the project activities. Mal-achievement and insufficient results of the 2nd KAP study might be attributed to the delay. The details are given in “4.3 *Efficiency*” section.



4.3 Efficiency

The efficiency of the Project is lower moderate at the time of the Terminal Evaluation, since substantial delays of the project activities vitiated the efficiency of the Project.

1) Progress Management of the Project Activities

Activities on each process have been conducted in line with the Plan of Operation, while the planned activities of the Project, by and large, were substantially delayed for almost one year. The reasons of the delays were suggested that almost first year of the project period was used for the finalization of PDM and the 1st KAP study as a preparation of the project ground and consequent delay on the implementation of project activities. Thus, the actual period of time for the implementation of project activities was substantially shortened for two years, which was considered too short to promote satisfactory behavioral modifications amongst the target group at the 2nd KAP study in November 2009, even though the planned activities were accomplished.

There were substantial problems with the communication and/or cooperative relationship among the relevant organizations during the initial phase of the project period. For details, there existed serious managerial problems between ICS, the implementation body of the project activities, and NPCS/CNCS as well as JICA Mozambique Office. ICS has defaulted in the performance of any obligation of reporting in regard to project-related information and data in spite of oft-repeated requests. Accordingly, this issue has prevented the project activities from progressing in line with the Plan of Operations (PO).

In response to these difficult circumstances, the Project decided to restructure and consolidate the implementation system of the project activities to forge a pact with a local NGO of CCM under the clauses of IEC implementation as the project activities. The restructured implementation system of the project activities was conducive to accelerate the progress of the project activities under the frequent monitoring and evaluation by NPCS and JICA Mozambique Office, while the actual commencement of the project activities was almost one-year behind schedule. However, all the planned activities defined in PDM were accomplished by the end of the project period under the coordinated management amongst project-related entities.

Additionally, as the project site is rather far from Maputo city, location of JICA Mozambique Office and CNCS, and scheme of technical cooperation project doesn't allow direct provision of budget to counterpart organizations, management of the Project was rather difficult from the aspects of budget administration and progress control. Although entrustment of IEC activities to CCM has improved the situation considerably, dispatch of Japanese experts should have been taken into consideration for better and easier coordination of the Project under remote supervisory control of JICA and CNCS. The monitoring was conducted frequently by NPCS and JICA in the field and through progress report activities. And after improvement of implementing approach, it became easier to monitor the activities and to solve problems through the close communications among JICA, NPCS and CCM through coordination meetings with stakeholders.



2) Beneficial utilization of provided equipment and materials

All materials such as brochures and posters have been distributed to communities and translated IEC films have been utilized during the mobile unit sessions.

Equipments provided for project management (vehicle, computers, etc.) and those installed for the reinforcement of IEC implementation capacity in districts (cameras, laptops, printers, projector, DVD, generator) are fully utilized. However, regarding equipments which had been used by ICS (video cameras and others) are not being used now after handed over from ICS to NPCS, because NPCS and CNCS don't have technician with skill to manage them.

3) Collaboration with Existing Resources

① Collaborative activities with other Japanese resources

There was no collaborative activity with other Japanese resources such as other JICA projects, Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) and so on.

② Collaboration with Other Resources

The project has tried to involve other partners in planning process of the project activities through the meeting with UNICEF, WHO, ITALIAN COOPERATION and invitation to the workshop of national and international NGO's working in HIV/AIDS in Sofala Province. For details, as the Italian Cooperation is also implementing the mobile units sessions against HIV/AIDS, we were invited to field visit for exchange of experience among us and has a result of that the project received a copy film of "History of Miner" in Sena Language.

4) Contributing Factors for Efficiency

The Project has implemented a lot of activities in the communities such as screening of films translated from Portuguese to local languages, radio sessions, and workshops for various targets in various themes as described in "3.2.1 Achievements of the Project Activities", regardless of the limited time of two years as a actual implementation period of the Project. And, the strong point of the Project must be the involvement of communities, CBOs and other project-related entities. NPCS and CCM established community-based networks with five CBOs and other related actors such as Haya Haya theatre group, to build capacity of district level responsible for HIV/AIDS, and to implement IEC activities as regular activities. It is emphasized that the network of IEC-related activities for combat of HIV/AIDS has contributed to efficient implementation of the project activities, and the network will contribute to the improvement of HIV prevalence in Sofala province in the future.

5) Inhibitory Factors against Efficiency

It is suspected that the delay is attributed to the difference of fiscal year. Japanese fiscal year starts from April, while Mozambican starts from January. Five months difference has influence on efficient administration of the budget allocation.



A presidential election took place in November 2009, and government-affiliated organizations were insufficiently functioning during a 45-day campaign period prior to the election. During the campaign and election periods, the project activities were temporally interrupted.

A handwritten mark, possibly the number '2', enclosed within a hand-drawn circle.

4.4 Impact

The following positive or negative impacts are confirmed or expected in line with the implementation of the Project.

1) Probability of achievement of the Overall Goal

There is not any logical error to expect the reduction of HIV prevalence in Sofala province through the implementation of activities regarding IEC reinforcement against younger generation. And, slight reduction of HIV prevalence was already observed (Table 2), while it is difficult to measure direct influence of the Project to the reduction due to the existence of external factors outside the scope of the Project. Furthermore, though the project activities were focused on younger generation ranging from 15 years old to 24 years old, film public viewings as well as radio sessions were conducted in communities, and its beneficiaries were not only younger generation but also school children as well as adolescent and adulthood generations. However, there are several remaining problems, which are unachievable within the Project period as well as external issues outside the scope of the technical assistances provided by the Project.

As aforementioned above, it would be required to conduct an additional KAP study with efficient "power" of 1,300 - 1,500 at 3 - 5 years intervals to guarantee data quality in terms of accurate extrapolation. Moreover, current activities should be implemented in a continuous manner to generate a certain impact of knowledge, attitude and practices not only for younger generation and also for society.

Meanwhile, Sofala province, where is the metropolis in central region with major arterial road of "Beira Corridor", has a lot of transients and immigrants from other provinces and other countries, who can be the one of the major HIV transmitters. Other important assumptions such as anti-retroviral therapy (ART), referral system and quality assurance of laboratories, HIV test service provision, nutrition, etc. should be taken into consideration not only for reduction of HIV prevalence but for comprehensive improvement of HIV/AIDS situation in Mozambique in collaboration with internal and external relevant supporters.

Aforementioned views are premised on the continuous implementation of current activities. Therefore, financial and technical assistances will be necessary for the maintenance and expansion of the benefits derived from the Project, and consequent achievement of the indicator of Overall Goal of a 5% reduction of the HIV/AIDS prevalence in Sofala Province. Furthermore, multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence rare should be taken into consideration in order to promote a certain impact on the reduction of HIV prevalence.

2) Important Assumption for Overall Goal

- ① "Condoms are being made available sufficiently."

CNCS, Ministry of Health and provincial governments are expected to promote distribution of condoms especially to the remote areas in order to improve availability of condoms especially for women. However, distributed condoms should be exceeding a certain level of



quality so that users are willing to use them.

② *“Youth have access to income generating activities and entertainment.”*

The Mozambican authorities as well as related organizations have an awareness of the HIV/AIDS issue as crosscutting issue. They have been struggling with the issue in all their endeavors. Since it is expected that the new government continuous prioritizing the development of local and rural areas, income generating activities and entertainment would be also promoted in Sofala province.

3) Other Impacts

As aforementioned, HIV/AIDS-related issues are recognized to be crosscutting, mutual positive impacts amongst relative agencies will be expected through the improvement of IEC activities.



4.5 Sustainability

A self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits provided by the Project can be expected in some degree if continuous small-sized assistances are obtained by any means.

1) Political and Institutional Aspects

As described in “*Relevance*” section, the importance of IEC activities is highly expected to be maintained for a certain time, since strengthening of IEC activities is regarded as one of the most important health-related policies in Mozambique. CNCS launched a crosscutting and comprehensive plan to fight against HIV/AIDS under the National Strategy for HIV/AIDS 2005-2009, consisting of seven priority areas of “*Prevention*”, “*Advocacy*”, “*Stigma and Discrimination*”, “*Treatment*”, “*Mitigation*”, “*Investigation*” and “*Coordination*”, including IEC targeting younger generation as a high-risk group. The Team has verbally confirmed that those principles including IEC won't be diminished in the next plan and/or strategy.

Sofala province, the metropolis in central region with major arterial road of “*Beira Corridor*”, is recognized as highly vulnerable region to HIV epidemic. Though the HIV prevalence in Sofala province is slightly decreasing in recent years, the geographical importance for HIV prevention stays unchanged.

2) Financial Aspects

It is expected that political assistances will continue equated with other provinces, while additional budget will not be allocated for maintaining current activities. However, if Sofala province and districts prioritize HIV/AIDS issues from now on, budget allocation would be expected in some degree because the state government policy allows provinces and districts to plan the financial resources autonomously in the process of decentralization.

On the other hand, most of the equipments for IEC activities provided by the Project are well functioning at district level. But, there are several equipments to be repaired and/or newly purchased such as amplifiers and large-size speakers for outdoor film sessions. Moreover, IEC mobile services for remote and rural areas such as costs for dispatches of theatre group, transportations are rather budget consuming, while fundamental devices and materials for the mobile services are properly equipped by the Project and the activities are being implemented by using existing resources including communities efficiently.

In the views of these circumstances, it is rather suspicious to assure a self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits provided by the Project without a continuous financial assistance by any means. The Project and authorities in Sofala province should discuss and organize necessary measures, from financial perspective, for the sustainability of the benefits of the Project.



3) Technical Aspects

From the beginning of the project, NPCS has assigned same coordinator and counterparts to work for, and has implemented the Project without any turnover. They have been engaged in the Project positively by the field report and monitoring (field visit). Thus, it is considered that managerial capacity of NPCS for IEC activities was sufficiently strengthened through the implementation of the Project.

However, it is considered that an additional technical assistance will be required for CNCS and NPCS to bootstrap KAP study and its detailed analysis as well as impact measurements for workshops and film sessions (statistically if it is possible). Moreover, further reinforcement will be necessary for them to systematically convert the results obtained from monitoring and pre- and post test, etc. into their daily activities, though they are already capable of conducting the current activities by their own. Therefore, it is recognized that they have acquired certain level of capacity for the implementation of IEC activities as a routine work, there remains still needs of technical assistance in terms of data management and analysis.

4) Comprehensive Sustainability

From political and institutional aspects, sustainability of the project in terms of the importance of HIV/AIDS control will be highly maintained. However, financial and technical assistance will be required, even if it were small-scale, to maintain the benefits derived from the implementation of the Project and to promote further improvement of their capacity for quality data management, while they have acquired certain level of capacity for the implementation of IEC activities as a routine work.



4.6 Conclusion

The importance of policy response to combat HIV/AIDS is maintained as one of priority policies regarding Mozambican healthcare at the time of Terminal Evaluation. Moreover, the active efforts to HIV/AIDS including IEC activities are supposed to be highly prioritized in the next strategic plan that is about to be launched by CNCS. Moreover, consistency with Japan's and JICA's aid policies as well as needs of society is confirmed. Therefore, it is considered that the relevance of the Project is highly maintained at the time of the Terminal Evaluation.

On the other hand, the achievement of objectively verifiable indicators for the Project Purpose from the aspect of accomplishments of the indicators on the basis of the evaluation principals strictly, it is considered that the achievement of the Project is rather limited due to insufficient improvements of knowledge, attitudes and practice amongst younger generation at the time of the Terminal Evaluation. Delays of the project activities have substantially inhibited the implementation of the project activities. Mal-achievement and insufficient results of the 2nd KAP study might be attributed to the delay. However, the Project succeeded to improve several indicators such as substantial increase of awareness toward HIV test and educated sexual intercourse. Therefore, it is considered that the effectiveness of the Project is considered to be moderate on average at the time of the Terminal Evaluation.

Activities on each process have been conducted in line with the Plan of Operation, while the planned activities of the Project, by and large, were substantially delayed for almost one year for the finalization of PDM and the 1st KAP study as a preparation of the project ground. Thus, the actual period of time for the implementation of project activities was substantially shortened for two years, which was considered too short to promote satisfactory behavioral modifications amongst the target group. However, NPCS and CCM established community-based networks with five CBOs and other related actors, and the network will contribute to the improvement of HIV prevalence in Sofala province in the future. Therefore, The efficiency of the Project is lower moderate at the time of the Terminal Evaluation, since substantial delays of the project activities vitiated the efficiency of the Project.

Slight reduction of HIV prevalence was already observed, while it is difficult to measure direct influence of the Project to the reduction due to the existence of external factors. Sofala province has a lot of transients and immigrants from other provinces and other countries, who can be the one of the major HIV transmitters. Other important assumptions such as ART, referral system and quality assurance of laboratories, HIV test service provision, nutrition, etc. should be taken into consideration not only for reduction of HIV prevalence but for comprehensive improvement of HIV/AIDS situation. Therefore, it is considered that multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence rare should be taken into consideration in order to promote a certain impact on the reduction of HIV prevalence.

From political and institutional aspects, sustainability of the project in terms of the importance of HIV/AIDS control will be highly maintained. However, financial and technical assistance will be required, even if it were small-scale, to maintain the benefits derived from the implementation of the Project and to promote further improvement of their capacity for quality data management, while they have acquired certain level of capacity for the implementation of IEC activities as a routine work. Therefore, it is considered that a self-sustainability as well as a self-deployment of the benefits



provided by the Project can be expected in some degree if continuous small-sized assistances are obtained by any means.

In conclusion, it is suggested that some sort of continuous assistance from financial and technical aspects, even if it were small-scale, would be necessary for the maintenance and/or the improvement of benefits derived from the Project, and for further development.



CHAPTER 5 RECOMMENDATIONS AND LESSONS LEARNED

5.1 Recommendations

- 1) It would be required to conduct an additional KAP study with efficient “power” of 1,300 - 1,500 at 3 - 5 years intervals to guarantee data quality in terms of accurate extrapolation.
- 2) Current activities should be implemented in a continuous manner to generate a certain impact of knowledge, attitude and practices not only for younger generation and also for society.
- 3) Technical trainings for betterment of knowledge of HIV/AIDS prevention, project management capacity including networking of NPCS, districts and CBOs should be promoted in order to improve sustainability and quality of activities. In case of implementation of trainings, pre and post test should be done correctly in order to evaluate the knowledge change of participants and to improve training approach.
- 4) Multi-lateral and/or multi-sectoral approaches for reduction in HIV prevalence rare should be taken into consideration for better efficiency of technical cooperation and beneficial sustainability.
- 5) The Project and authorities in Sofala province should discuss and organize necessary measures, from financial perspective, for the sustainability of the benefits of the Project. Also, CNCS at central level should utilize the achievement of this Project in Sofala province for overall improvement of IEC activities in the country.

5.2 Lessons Learned

- 1) When considering a project with multi-organizational counterparts, work performances as well as relationship amongst them should be carefully investigated prior to the detailed planning survey of the project.
- 2) To promote behavioral modification, involvement of communities and/or community-based organizations is considered to be necessary for better efficiency and sustainability.
- 3) When considering a project, which aims behavioral modifications, objectively verifiable indications as well as project period should be carefully discussed since it might take certain amount of time to promote behavioral change under the circumstances of a variety of social conditions including gender issues.



2. 合同評価報告書

Annexes

Annex 1 Project Design Matrix (PDM) (December 18, 2007)

Annex 2 List of Input

2-1 List of NGO

2-2 List of Consultant

2-3 Budget Allocation for the Project Implementation

2-4 List of Counterparts (C/P)



Annex 1 PROJECT DESIGN MATRIX

Project Title: The Project to Strengthen Information, Education and Communication (IEC) Activities in Sofala Province
Executing Bodies: CNCS and ICS Duration: 3 years (from April 2007 to April 2010) Revised Date: 18 December 2007

Narrative summary	Verifiable Indicators	Means of verification	Assumptions
<p>Overall goal HIV prevalence in Sofala Province is reduced.</p>	<p>By 2013, a reduction of 5 % of the HIV/AIDS prevalence in Sofala Province.</p>	<p>National household survey on HIV/AIDS prevalence.</p>	<p>Condoms are being made available sufficiently Youth have access to income generating activities and entertainment</p>
<p>Project Purpose The behaviors of youth toward; increased condom use, reduced number of sexual partners, and delayed sexual debut, are changed, and also discriminatory attitudes towards PLWHA are thawed in Sofala Province.</p>	<p>By 2010, condom use in last occasional sexual relation among the youth in Sofala Province is increased by 10% in comparison with that of the beginning of the project. By 2010, the average number of sexual partners is reduced in comparison with that of the beginning of the project.</p>	<p>KAP study report (to be conducted at the beginning and end of the project) KAP study report</p>	<p>KAP study report KAP study report</p>
<p>Outputs 1 Levels of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth are improved through reinforcement of HIV/AIDS education. 2 Programme implementing capacity of CNCS and ICS is reinforced and partnership with other entities in the activities is fostered.</p>	<p>By 2010, the average/median age of sexual debut is elevated in comparison with that of the beginning of the project. By 2010, 10% of youth thawed discriminatory attitudes towards PLWHA.</p>	<p>KAP study report KAP study report</p>	<p>KAP study report KAP study report</p>
<p>Activities 1.1 To conduct KAP survey targeting the youth and analyze the result at the beginning and the end of the project. 1.2 To conduct a survey targeting adult target groups (parents, community leaders, régulos, religious leaders, traditional healers, teachers and government</p>	<p>By 2010, higher level of knowledge, attitude and practice related to HIV/AIDS issues among the youth will be confirmed in comparison with that of the beginning of the project. By 2010, ICS will organize regular activities jointly with at least 3 partner organizations in Sofala province.</p>	<p>KAP study report ICS Periodic progress report</p>	<p>Sexual education is considered as a long-term process with an extensive context related to sexual health, which becomes more specific as the youth grow older Pre-conditions There are other organizations of good quality that work in the area of sexual education and that accept</p>
<p>Inputs <Japanese side></p> <ul style="list-style-type: none"> • One four-wheel vehicle • One laptop computer • One printer • One set of a digital video camera • Dispatch of expert 			

<p>authorities etc) on youngsters' sexual activities.</p> <p>1.3 To undertake workshops with the adult target groups to raise their awareness towards the need of their involvement into HIV/AIDS education in families and communities based on the result of Activity 1.2.</p> <p>1.4 To evaluate existing IEC materials and identify the needs for new materials to be produced in accordance with the spirit of the Communication Strategy.</p> <p>1.5 To produce IEC materials for the youth and adult target groups based on the result of Activity 1.1-1.4.</p> <p>1.6 To disseminate IEC materials among the youth and adult target groups together with informing the other available services such as VCT services and condom distribution.</p> <p>1.7 To conduct participatory debates involving the youth, the adult targeted groups and PLWHA groups so as to obtain their consensus on the content/ messages which should be disseminated.</p> <p>2.1 To identify entities who operate in the area of HIV/AIDS education for youth (specialists in reproductive health, health personnel, including local initiatives in the area of theatre and music) in Sofala Province.</p> <p>2.2 To identify facilities in the area of HIV/AIDS education for the youth (VCT centers etc) and available services (condom distribution etc) in Sofala Province.</p> <p>2.3 To conduct workshops involving the other entities working on HIV/AIDS issues so as to create a participatory work plan for the dissemination of the IEC materials.</p> <p>2.4 To conduct basic and continuous training on HIV/AIDS education and sexual health, including monitoring and evaluation, for ICS and the other entities.</p> <p>2.5 To monitor the IEC activities implemented by ICS and the other entities.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Consultant fee for conducting KAP study • Other cost mutually agreed upon as necessary <p><Mozambican side></p> <ul style="list-style-type: none"> • Running costs mutually agreed upon as necessary • Assignment of personnel • Office space and necessary facilities for the Japanese experts and related staff members (CNCS-Beira and ICS-Beira) • Rooms and space necessary for installation and storage of equipment • Other facilities mutually agreed upon as necessary 	<p>establish partnership with ICS</p> <p>There exists technical and financial capacity to provide ICS with continuous training</p>
--	---	--

Annex 2

2-1 List of NGO

	JFY	Name	Subjects	Period
1	2008	Christian Council of Mozambique (CCM)	IEC Activities Implementation on HIV/AIDS	Jan 15, 2009 - Mar 31, 2009
2	2009	Christian Council of Mozambique (CCM)	IEC Activities Implementation on HIV/AIDS	Jun 8, 2009 - Mar 13, 2010

2-2 List of Consultant

	JFY	Name	Subjects	Period
1	2007	Austral Cowi, Lda.	1 st KAP survey (baseline survey)	Aug 3, 2007 - Oct 15, 2007
2	2007	Kula (Estudos e Pesquisas Aplicadas, Lda.)	Evaluation of IEC materials for HIV/AIDS in Sofala province	Feb 1, 2008 - Mar 21, 2008
3	2008	Austral Cowi, Lda.	Translation of IEC materials and Dissemination, Monitoring and Evaluation Planning on the IEC materials for HIV/AIDS in Sofala province	Sep 9, 2008 - Oct 24, 2008
4	2009	MD Consultores, Lda.	2 nd KAP survey (endline survey)	Oct 26, 2009 - Jan 29, 2010

2-3 Budget Allocation for the Project Implementation

JFY	Japanese Side	Mozambican Side
2005	2,580,000 JPY Overseas Activity Cost: 2,580,000 JPY	(Venues on project office, equipment and facilities for training of the project, transportation, accommodation and food for the participants of workshop and symposium, trainers)
2006	3,902,000 JPY Equipment Provision: 3,704,000 JPY Overseas Activity Cost: 198,000 JPY	(Venues on project office, equipment and facilities for training of the project, transportation, accommodation and food for the participants of workshop and symposium, trainers)
2007	10,305,000 JPY Equipment Provision: 4,620,000 JPY Overseas Activity Cost: 5,685,000 JPY	(Venues on project office, equipment and facilities for training of the project, transportation, accommodation and food for the participants of workshop and symposium, trainers)
2008	7,782,000 JPY Overseas Activity Cost: 7,782,000 JPY	(Venues on project office, equipment and facilities for training of the project, transportation, accommodation and food for the participants of workshop and symposium, trainers)
2009	18,331,000 JPY Equipment Provision: 3,231,000 JPY Overseas Activity Cost: 15,100,000 JPY	(Venues on project office, equipment and facilities for training of the project, transportation, accommodation and food for the participants of workshop and symposium, trainers)

Total	42,900,000 JPY	
-------	----------------	--

2-4 List of Counterparts (C/P)

	Name	Affiliation	Position
1	Dr. Joana Manguera	CNCS, Maputo	Executive Secretary
2	Dr. Benedito Ngomane	CNCS, Maputo	Coordinator of Communication and Information Unit
3	M. Katia Manjate	CNCS, Maputo	Assistant of Communication
4	Dr. Maria Semdo	NPCS Sofala	Coordinator of Provincial Nucleon Against AIDS
5	Mr. Nelson Joaquim	NPCS- Sofala	Assistant of Communication
6	Mr. Jose Antonio	DD Caia	District Head
7	Mr. Sergio Moiane	DD Buzi	District Head
8	Ms. Ana Antonio	DD Chibabava	District Head
9	Ms. Antonio Januario	DD Chemba	District Head
10	Mr. Luis Domingo	DD Dondo	District Head
11	Mr. Paulo Majacunene	DD Bhamatanda	District Head
12	Mr. Absalao Chabela	DD Marringue	District Head
13	Mr. Ricardo Guilande	DD Cheringoma	District Head
14	Mr. Pita Jojo	DDMachanga	District Head
15	Mr. Remo Mucatare	DD Muanza	District Head
16	Mr. Alissane	NDCS Gorongosa	Coordinator
17	Mr. Antonio	NDCS Chibabava	Coordinator
18	Mr. Carlitos	NDCS Chemba	Coordinator
19	Mr. Jhon	NDCS Dondo	Coordinator
20	Ms. Vitoria	NDCS Nhamatanda	Coordinator
21	Mr. Aurelio	NDCS Buzi	Coordinator
22	Mr. Roque	NDCS Marromeu	Coordinator
23	Mr. Gabriel	NDCS Marringue	Coordinator
24	Mr. Milagre	NDCS Cheringoma	Coordinator
25	Mr. Natal	NDCS Machanga	Coordinator
26	Mr. Lucio Chiteve	HAYA HAYA GROUP	Coordinator

DD- District Directorate

NDCS- District Nucleo Against Aids

3. 評価グリッド（和文）

モザンビーク共和国 ソファアラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト終了時評価調査
評価グリッド ver.1

5 項目	評価設問			判断基準	必要なデータ	情報源	データ 収集方法	
	大項目	中項目	小項目					
妥当性	優先性	プロジェクトがめざす効果とモザンビークの保健計画の整合性			モザンビークの保健政策等	① モザンビーク保健医療政策文書 ② その他 HIV/AIDS 関連政策文書 ③ 保健省	① 資料レビュー	
			日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画との整合性	援助重点課題との関連性		日本のモザンビークに対する援助重点分野	対モザンビーク援助政策等	資料レビュー
				JICA 国別事業実施計画との関連性		保健医療分野の位置づけ	JICA 対モザンビーク 事業展開計画	資料レビュー
	必要性	ターゲットグループの妥当性	選定の妥当性		対象地域選定理由	プロジェクト報告書類	① 資料レビュー	
			プロジェクト目標とターゲットグループのニーズの一致性		ソファアラ州の HIV/AIDS の現状	① プロジェクト報告書類(KAP 調査報告書等) ② 関係者の意見	① 資料レビュー	
	方法の適切性	実施機関としての CNCS 及び ICS	実施機関としての CNCS 及び ICS としたことの妥当性		① CNCS 及び ICS サービス提供能力 ② CNCS と ICS の連携	① モザンビーク HIV/AIDS 実施体制 ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー	
			現地 NGO の選定の妥当誠意	KAP 調査等の実施能力		モザンビーク、ソファアラ州の慣習等	① プロジェクト報告書類(KAP 調査報告書等) ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー
			社会的配慮	ジェンダーや民族、社会的階層に対する配慮の有無		モザンビーク、ソファアラ州の慣習等	① プロジェクト関連資料 ② C/P	③ 資料レビュー ④ 質問票
	有効性	達成状況	成果の達成状況	各成果の指標の達成状況	各成果の指標の達成状況	① 指標の達成状況 ② プロジェクト活動実績と達成度	① プロジェクト報告書類 ② C/P	① 質問票 ② 資料レビュー ③ インタビュー
				プロジェクト開始時と比較して、若年者の HIV/AIDS 問題に関連した知識・態度・行動のレベルが改善したか	指標達成状況以外の状況も含めた総合的現状の確認	プロジェクト活動対象範囲内の指標以外の成果等	① プロジェクト関連資料等 ② C/P	① 質問票 ② 資料レビュー ③ インタビュー
CNCs(及び ICS)のプログラム実行能力が強化され、他の関係組織との連携が強化されたか				指標達成状況以外の状況も含めた総合的現状の確認	プロジェクト活動対象範囲内の指標以外の成果等	① プロジェクト関連資料等 ② C/P	① 質問票 ② 資料レビュー ③ インタビュー	
プロジェクト目標の達成見込み			プロジェクト目標の指標の達成状況	総合的判断	① 指標の達成状況 ② プロジェクト活動対象範囲内の指標以外の成果等	① プロジェクト関連資料等 ② C/P	① 資料レビュー ② 質問票 ③ インタビュー	
因果関係		プロジェクト目標の達成は成果によって引き起こされたものか	ロジックに誤りはないか	論理性の検証	① 調査団による検証	① プロジェクト報告書類 ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー	
	他にプロジェクト目標達成に必要な成果、または有効なアプローチはなかったか		論理性の検証	① 調査団による検証 ② 関係者の意見	① プロジェクト報告書類 ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー		
	プロジェクトにより作成、導入された資機材は活用されているか			① 資料の利用状況 ② 機材投入実績と稼働状況	① プロジェクト関連資料等 ② 投入実績表	① 資料レビュー ② 直接観察		

モザンビーク共和国 ソファラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト終了時評価調査
評価グリッド ver.1

5 項目	評価設問			判断基準	必要なデータ	情報源	データ 収集方法
	大項目	中項目	小項目				
	促進・阻 害要因	プロジェクト目標、成果 達成に対する促進・阻 害要因	プロジェクト実施に影響 を及ぼすほど、実施担 当者の離職、異動がな かったか		① HIV/AIDS ワク チン供給状況 ② HIV/AIDS ワク チ供給システ ム（調達方 法、財源等）	① プロジェクト関 連資料等 ② 関係者の意見	① 質問票 ② インタビュ ー
			NPCS の予算は適切に 執行されたか		NPCS 予算実行状 況	① プロジェクト関 連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー
			その他の影響はあるか		①関係者の意見 ②その他の予 期しない外部条 件等	① C/P ② プロジェクト報 告書類	① インタビュ ー ② 資料のレビ ュー ③ 質問票
効率性	時間資源	計画どおりに成果が達成されたか			プロジェクト活動 の進捗管理	① プロジェクト報 告書類 ② 関係者の意見	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー
	投入の 質、量、タ イミング	達成されたアウトプット から見て、投入の質、 量、タイミングは適切か	供与機材の種類、量、 設置時期は適切か		① 機材投入実績 ② 利用状況	① 投入実績表 ② C/P ③ JICA モザンビ ーク事務所	① 資料レビュ ー ② 直接観察 ③ インタビュ ー
			プロジェクトの現地活動 費の額は適切か		① 日本側現地活 動費投入実績	① 投入実績表 ② C/P ③ JICA モザンビ ーク事務所	① 資料レビュ ー ② インタビュ ー
			モザンビーク側の C/P 配置、予算規模は適切 か		① モザンビーク 側投入実績	① 投入実績表 ② C/P ③ JICA モザンビ ーク事務所	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー
	既存のリ ソースとの 連携	日本のリソースの活用	合同調整委員会等の 提言が成果達成に影響 したか		① プロジェクト活 動実績	① プロジェクト報 告書類 ② C/P	① 資料レビュ ー ② 質問票
			他の日本のリソース等 との連携実績はあった か		① プロジェクト活 動実績	① プロジェクト報 告書類 ② C/P ③ JICA モザンビ ーク事務所	① 資料レビュ ー ② 質問票
		他ドナー等の連携	他ドナーとの連携実績 または可能性はあるか		連携実績	① プロジェクト報 告書類 ② C/P	① 資料レビュ ー ② 質問票
	促進要 因・阻 害要 因	効率性を促進した要因はあるか			関係者の意見	① プロジェクト報 告書類 ② C/P	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー
		効率性を阻害した要因はあるか			関係者の意見	① プロジェクト報 告書類 ② C/P	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー
インパ クト	上位目標 の達成見 込み	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか (指標設定の妥当性の検証も含む)		ロジックの 検証	モザンビーク HIV/AIDS 政策等	① 政策文書等 ② 調査団による 検証	① 資料レビュ ー
		ソファラ州全体で、「2013 年までに、ソファラ州の HIV/AIDS 罹患率が 5%減少する。」を達成出来る 見込みはあるか		現状から の予測	① プロジェクト目 標達成状況 ② モザンビーク の HIV/AIDS 政策等	① プロジェクト報 告書類 ② モザンビーク の HIV/AIDS 政 策等 ③ 関係者の意見	① 資料レビュ ー ② 質問票 ③ インタビュ ー

モザンビーク共和国 ソファアラ州における HIV/AIDS 啓発のための IEC 活動強化プロジェクト終了時評価調査
評価グリッド ver.1

5 項目	評価設問			判断基準	必要なデータ	情報源	データ 収集方法
	大項目	中項目	小項目				
		上位目標に至るまでの外部条件「ソファアラ州において、コンドームの配布が継続的に行われ、供給が需要を満たすことができる。」および「若年者の収入発生活動及び娯楽へのアクセスがある。」は現時点においても正しいか、外部条件が満たされる可能性は高いか		ロジックの検証	保健省、州保健局の HIV/AIDS 政策	① C/P ② 関係者の意見	インタビュー
	その他のインパクト	上位目標以外に、プロジェクトはどのような変化をもたらしそうか、また、現時点で発現しているインパクトはあるか	正のインパクト		その他の情報	① プロジェクト関連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② 質問票 ③ インタビュー
			負のインパクト		その他の情報	① プロジェクト関連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② 質問票 ③ インタビュー
自立発展性	プロジェクトの効果が援助終了後も維持される見込み	政策・制度的側面	モザンビークにおける HIV/AIDS に関連する政策が継続・強化されるか		① モザンビークの保健政策	① 保健省 ② C/P ③ 関係者の意見	インタビュー
			プロジェクト成果をソファアラ州全域に普及・拡大するための政策的支援等が実施されるか		① モザンビークの保健政策 ② CNCS の意向・方針	① 保健省 ② C/P ③ 関係者の意見	インタビュー
	財務的側面	HIV/AIDS サービス提供のための財源は維持される見込みはあるか		モザンビークの保健政策、予算等	① 保健省 ② C/P ③ 関係者の意見	インタビュー	
		ソファアラ州に対し、プロジェクト成果普及のための人員・予算措置は実施される見込みはあるか		モザンビークの保健政策、予算等	① 保健省 ② C/P ③ 関係者の意見	インタビュー	
	技術的側面	プロジェクトにより強化された HIV/AIDS サービスは、プロジェクト終了後も維持・向上する見込みはあるか		内部教育システム等技術維持のためのシステムの有無等	① プロジェクト関連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② インタビュー	
		プロジェクト対象地域へのプロジェクト成果普及の為に人材は養成されているか		州保健局の HIV/AIDS サービス実施能力等	① プロジェクト関連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② インタビュー	
		トレーニングを受けた C/P の技術は、他の地域へのプロジェクト成果普及に際し、十分なレベルに到達しているか		C/P の技術レベル	① プロジェクト関連資料等 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② インタビュー	
	促進要因・阻害要因	プロジェクトの効果が維持するための外部条件は維持されるか		関係者の意見	① プロジェクト関連資料等 ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー	
		自立発展性に影響する促進要因・阻害要因に対する対応は検討されているか		関係者の意見	① プロジェクト関連資料等 ② C/P	① 資料レビュー ② インタビュー	
	総合的自立発展性	上記のような側面を総合的に勘案して、自立発展性は高いのか、低いのか			調査団による評価分析	① プロジェクト報告書類 ② C/P ③ 関係者の意見	① 資料レビュー ② インタビュー

